

SCREEN

印刷のあたりまえを変えていく。



変わり続ける世の中に、印刷ができること。
一人ひとりの思いに確実に届ける。商品の安全・安心を支える。
最新のプロモーションを展開する。新たな価値を創造する。
これまでにない印刷の可能性をもっと。
SCREENには、答えがあります。

株式会社 メディアテクノロジー ジャパン www.mtjn.co.jp

VP営業統轄部/03(5621)8324 本社/03(5621)8266(代)

〒135-0044 東京都江東区越中島1-1-1 ヤマトネ深川1号館1階

ホワイトカンパス
MON-NAKA
最新の印刷ソリューションを体感!
ホワイトカンパス MON-NAKA
www.screen-wcm.com

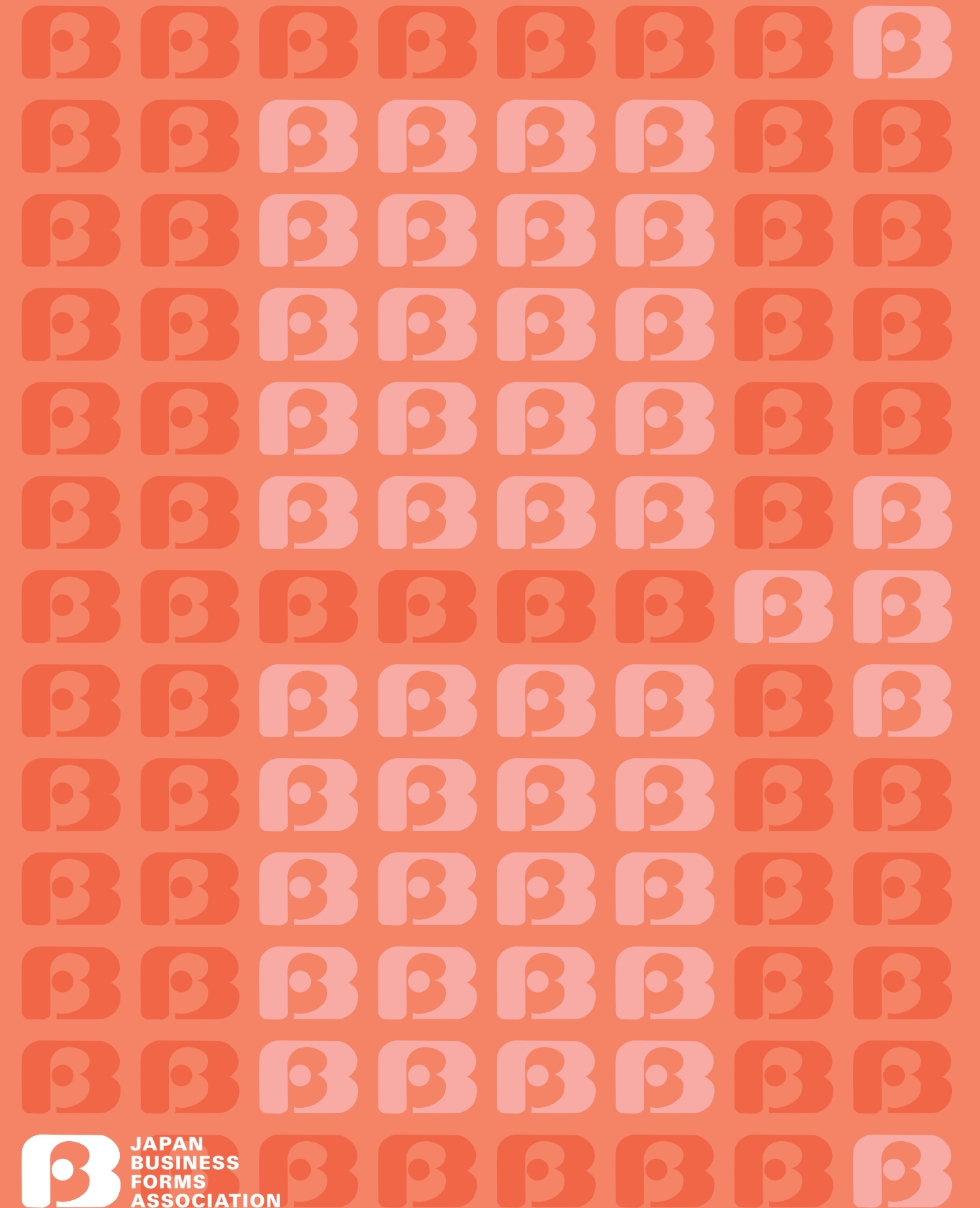


フォーム印刷

日本フォーム印刷工業連合会会報

2016.07 No.388

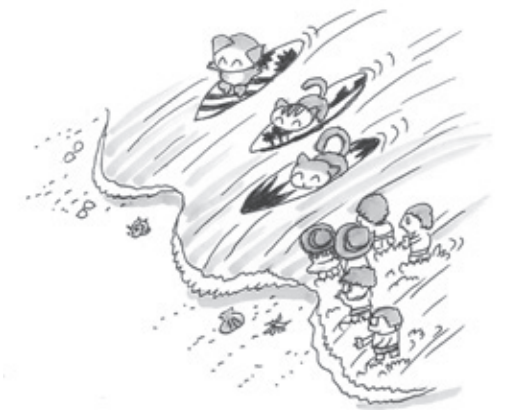
発行 日本フォーム印刷工業連合会
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館
TEL 03-3551-8615 FAX 03-3555-8466 URL http://jbfa.jp



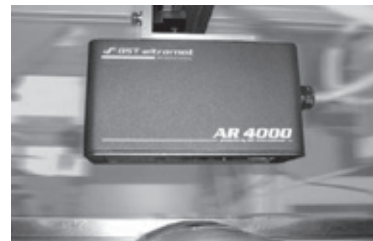
B JAPAN
BUSINESS
FORMS
ASSOCIATION

contents

- 2 平成28年度通常総会
 - 平成27年度活動報告並びに平成28年度事業計画
- 13 日本フォーム工連 平成28年度第1回理事会議事要録
- 16 日本フォーム工連 平成28年度第2回理事会議事要録
- 19 日本フォーム工連 平成28年度第3回理事会議事要録
- 22 トピックス
 - 業界初の印刷産業向けISO14001への取り組み
 - 視察報告会「フォーム業界から見たdrupa2016」を開催
- 26 工業会だより
 - 関東フォーム印刷工業会 平成28年度通常総会及び第2回理事会を開催
 - 北海道フォーム印刷工業会 平成28年度総会及び懇親会を開催
 - 東北フォーム印刷工業会 平成28年度定時総会・講演会・懇親会を開催
 - 中部フォーム印刷工業会 平成28年度定期総会・記念講演会・懇親会を開催
 - 関西フォーム印刷工業会 平成28年度定期総会・講演会・懇親情報交歓会を開催
 - 大阪支部 「例会とプチ勉強会」を開催
 - 中四国フォーム印刷工業会 平成28年度定期総会及び親睦ゴルフコンペを開催
 - 九州フォーム印刷工業会 平成28年度定期総会及び第1回理事会・研修会・親睦会を開催
- 32 INFORMATION
 - drupa2016視察レポート
 - drupa視察に参加して
 - フォーム業界の営業からみたdrupa
 - ホワイトペーパーファクトリーを観た！
 - 北米印刷事情レポート (WhatTheyThink) より
 - Xerox Inkjet drupa2016



高精度自動見当装置 AR 4000



AR4000 自動見当装置はコンパクトにまとめたカメラシステムです。印刷の色間・表裏間制御又はカットオフ等の加工部制御が可能で、見当ミスで発生するコストと時間を縮小します。又、カメラを追加する事で制御範囲の拡大が容易なモジュールシステムです。



スキャニングヘッドと操作タッチスクリーン

- スキャニングヘッド：1 chip RGB デジタルカラーカメラ・キセノンランプ光源・1024 x 768 ピクセル
- 見当マーク径：φ0.5mm ~ φ2.0mm
- 見当測定精度
 - カラー（マークとマーク間）：0.01mm
 - カットオフ（マークとシリンドラ間）：0.05mm
- 検知範囲内マーク最大数/1 カメラ：8
- 対応素材：紙、厚紙、フィルム（透明/半透明）
- 表示・操作：19" TFT タッチスクリーン

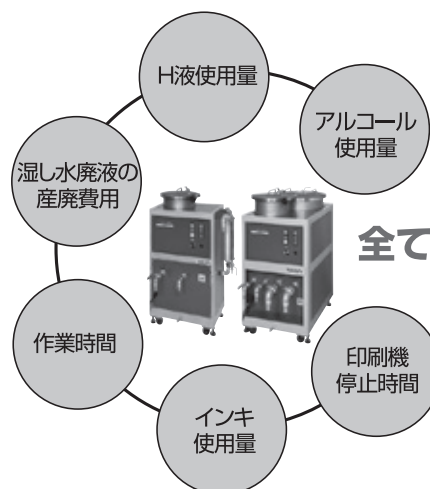
大阪本社 TEL 072-433-7100 / 東京オフィス TEL 03-5798-7805
 e-mail: inquiry@bst-eltromat-japan.com URL: http://bst-eltromat-japan.com



湿し水濾過装置 エバークリーン

18インチ フォーム 輪転4色機で年間 **100万円** の無駄をしていませんか？

経費削減完璧ですか？もう一度印刷現場の経費削減を考えてみませんか！



まだまだ出来る 印刷現場の経費節減

利益アップ

H液使用量の削減	4,100 円/月
アルコール使用量の削減	3,670 円/月
湿し水廃液の産廃費用の削減	15,000 円/月
印刷機停止時間の削減	56,000 円/月
インキ使用量の削減	16,800 円/月
作業時間の削減	3,000 円/月

※削減合計 - ランニングコスト = コストダウン
 98,570 円/月 - 11,548 円/月 = 87,022 円/月
 コストダウン合計 = 1,044,264 円/年

計算条件：印刷機12時間/日稼働、水交換2回/月、H液3%、IPA 5%、産廃処理、作業時間60分

全て削減!!

株式会社ニクニ 営業部 印刷グループ 〒213-0032 神奈川県川崎市高津区久地843-5
 URL http://www.nikuni.co.jp TEL 044-833-1121 FAX 044-833-6482



ビジネスフォーム印刷専用エッチ液

FCリスコート H-17 BFシリーズ

- 特 ☆UV・油性減感インキに適切な乳化特性を付与し、インキの過乳化を制御
- 徴 ☆種々の材料をコーティングしたインクジェット用紙並びに感圧接着紙の使用時にも汚れにくい
- ☆耐水性の低い染料系インキ・減感インキご使用時でも水元ローラー絡みを極力抑制



富士薬品工業株式会社
 FUJI CHEMICALS INDUSTRIAL CO.,LTD
 HP URL http://www.fcfuji.co.jp

本社 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北3-14-10
 TEL 03-3557-6201 FAX 03-3557-6205
 大阪営業所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町22-1
 TEL 06-6384-1351 FAX 06-6389-3221

TOYOINK

抜群の品質と生産性のフォーム印刷用インキ FD フォームXシリーズ

東洋インキ株式会社
 高機能材営業本部 UVインキ営業部
 〒104-8378
 東京都中央区京橋2-7-19 京橋イーストビル
 Tel:03-3272-7693 Fax:03-3272-0666
 www.toyoink.jp

- 高い硬化性 UV 硬化性を大幅に向上、高速印刷に対応。
- 広い水幅 水を上げても良好な印刷適正を実現。
- 優れた転移性 着肉を向上し印刷濃度をアップ。
- 紙面強度の弱い用紙の紙剥け防止タイプもラインナップ。

日本フォーム印刷工業連合会 平成28年度通常総会報告

日本フォーム印刷工業連合会(会長 櫻井 醜)は5月26日、ホテル椿山荘東京において平成28年度通常総会を開催した。

通常総会では第1号議案「平成27年度事業報告並びに収支決算報告承認の件」、第2号議案「平成28年度事業計画案並びに収支予算案承認の件」、第3号議案「任期満了に伴う役員改選の件」が審議され承認された。



平成28年度通常総会

平成28年度通常総会議案書

■第1号議案「平成27年度日本フォーム印刷工業連合会事業報告」

総会、理事会

平成27年度は、通常総会1回、理事会9回を開催し、重要事項の報告、審議・決定を行い、概要を会報、ホームページ等を通じ随時会員へ報告しました。



平成27年度通常総会

櫻井醜会長が平成28年度通常総会の開催を宣言した後、議長に櫻井醜会長を選任し、議案書に沿って第1号議案「平成27年度日本フォーム印刷工業連合会事業報告」及び第2号議案「平成28年度日本フォーム印刷工業連合会事業計画」について審議された。

1. 平成27年度通常総会

平成27年6月8日、ホテル椿山荘東京において通常総会を開催し、櫻井醜会長が議長となり、以下の議案を審議し原案通り承認されました。

- 第1号議案 平成26年度事業報告並びに収支決算報告承認の件
- 第2号議案 平成27年度事業計画案並びに収支予算案承認の件
- 第3号議案 役員一部改選の件

通常総会に引き続き開催した第3回理事会において、櫻井醜会長が議長となり、以下の議案を審議、原案通り承認されました。

- 第1号議案 副会長、常任理事指名の件
- 第2号議案 委員会委員の委嘱に関する件

2. 理事会

平成27年度は9回の理事会を開催し、事業計画に基づいた委員会活動、日本印刷産業連合会事業活動、各地区工業会事業活動報告を受け、業界課題の共通認識を図り、重要事項について審議・決定しました。

- 第1回 平成27年4月9日 於日本印刷会館
- 第2回 平成27年5月14日 於日本印刷会館
- 第3回 平成27年6月8日 於ホテル椿山荘東京
- 第4回 平成27年7月9日 於日本印刷会館
- 第5回 平成27年9月16日 於ホテルニューオータニ
- 第6回 平成27年10月15日 於城山観光ホテル (鹿児島)
- 第7回 平成27年11月12日 於日本印刷会館
- 第8回 平成28年1月21日 於ホテル椿山荘東京
- 第9回 平成28年3月10日 於日本印刷会館

常設委員会活動

櫻井醜会長のもと、会員各社の「成長戦略」を持ち、「経営基盤」の強化に向けた経営により業界全体が発展するよう、平成27年度の事業計画に基づいて活動を行ない、常設委員会では、それぞれの事業計画に基づき委員会活動を展開した。

業務委員会

- ・平成26年度事業報告書、決算報告書、平成27年度事業計画(案)、収支予算(案)を作成し、理事会の審議を経て平成27年度通常総会に上程、承認を受けました。毎月の収支については、月次計算書を作成、理事会に毎回報告した。
- ・夏季講演会「企業と消費者の協調・対話による新PL時代へ」を開催。

8月20日、ホテル椿山荘東京において業務委員会主催の夏季講演会を、120人が出席され開催した。講師は元愛知学泉大学教授で、一般社団法人PL(製造物責任)研究会名誉顧問の梁瀬和男氏を招いて



夏期講演会

開催した。テーマは「企業と消費者の協調・対話による新PL時代へ」。梁瀬氏は1995年11月に実施した米国PL事情研修ツアー(松下、三菱、日立など家電メーカー担当者ら17名が参加)に触れて、「ツアー中の講演で、現地の弁護士が『PLとは、あなたの会社を守る戦争、あなたの資産を守る戦争である。PLとは企業と消費者の戦争だ』という発言を聞いて非常に驚いた。また、別の弁護士は、『アメリカのPLはあまりにも無茶苦茶だ。日本の皆さんがアメリカのPLの歴史から多くを学び取り、アメリカの二の舞いを演じないことを願っている』とも言っていた」と述べた。こうした米国での体験を受けて梁瀬氏は、「PLは企業と消費者が対立するものではなく『双方の幸せ』を創りだすものであるというのが私の持論だ」と強調。「そのためには、企業は常に消費者の視点に立ち、消費者は企業を批判するのではなく、企業に提案・実行することが重要だ」と指摘。その一例として、主婦連と経済産業省の取り組みを挙げ、「これまでメーカー等のリコール報告は、新聞の社会面の一番下に小さな文字でごちゃごちゃ書かれていて、一体何が書かれているのか非常に分かりにくかった。これに対して主婦連は、企業を批判するのではなく、自分達が考える理想的なリコール報告の案を作って経済産業省に提案。こうして主婦連と経済産業省の連合プロジェクトが立ち上がり、本当に消費者に分かりやすいリコール報告の表現方法を作成したところ、それが一年も経たないうちにJIS規格に制定された」と、消費者側が批判型から提案・実行型に移行した好事例を紹介した。

近年、多くの企業が取り組んでいるコンプライアンスについては、「コンプライアンスとは法令や企業倫理などを順守し、社会の要請に応えることである」と定義づけた。現在マスコミを騒がせている東芝の企業不祥事についても触れ、「企業不祥事根絶の決め手は、ISOの取得と内部監査役の育成だ。内部監査役は現場の従業員から選出することが望ましい」と強調した。

- ・ケースメソッドによる「コンプライアンス研修会」を開催。

11月17日 日本印刷会館でケースメソッドによる「コンプライアンス研修会」を開催した。今回はコンプライアンスの理論を学ぶだけでなく、議題(ケース)に基づいたグループ討論がなされるなど、能動的な学習の場となった。講師は、平成27年新春講演会で「コンプライアンスを越えて」と題し講演をいただき、日本経営倫理学会副会長などを務め、



コンプライアンス研修会

コンプライアンスの第一人者である慶応義塾大学商学部・梅津光弘准教授。同氏は「企業倫理学、企業社会責任論(CSR)の登場で、企業経営の価値転換(バリューシフト)が起きている」としたうえで、不祥事に起こりうるリスクについて述べた。「不祥事が発覚したときのリスクは非常に大きい。また、盗難や災害と違い、不祥事に備える保険制度はない。認識と組織、両方を変革し、時代と社会の要請に応じていかなければならない」と説かれた。続いて開かれたケースメソッドでは、6グループに分かれて進行した。ケースメソッドとは、ある議題(ケース)に基づきながら、グループ討論、全体討議、指導者による総評を行うもの。指導者による正しい結論が用意されているケーススタディとは違い、結論も明示されず、グループ討論での積極的な発言や討論により、教育・訓練を目的としているのが特徴。今回は、各グループに「生産ラインのトラブルと購買規定」と題した議題(ケース)が与えられ、活発な討論が行われた。グループ討論の結果を共有する全体討論のあと、梅津氏による講評が行われ、「倫理とは人間行動の制御である。トラブルに遭遇した際、倫理的に間違っただけを実行したうえでも成功してしまうと、間違っただけの成功体験が『癖』になってしまう。真に求められるのは、トラブルの再発防止だ。そのためにも、企業倫理を組織風土に落としこみ、組織や社員の血となり肉となるなかで、いざというタイミングで倫理的に適した行動が取れるようになるのが理想」と説かれた。

- 平成28年新春懇親会・創立50周年記念式典を開催。
1月21日、新春懇親会をホテル椿山荘東京で約220人が出席し、創立50周年記念式典を開催した。記念式典では、小倉秀文(元 トッパン・ムーア(株)社長)、小林祥浩(元 小林クリエイト(株)社長)、宇都宮五郎(元 セイコービジネス(株)社長)、笹氣幸緒(元 笹氣出版印刷(株)社長)、渡辺 修(元 (株)恵



創立 50 周年記念式典

和ビジネ社長)、水谷春三(元 富士印刷(株)社長)の6氏に功労賞として、表彰状とトロフィーを贈呈した。櫻井醜会長は開会挨拶で「新しい未来を切り開く」と決意を示され、来賓祝辞として、経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課課長補佐の高橋淳子様、日本印刷産業機械工業会会長の宮腰巖様から祝辞をいただいた。乾杯のご発声とご挨拶は、日本印刷産業連合会の堀口宗男専務理事からいただき、新春講演会でご講演をいただいたアンドレアス・メルケ氏((株)メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン社長)と小柳才治氏(日本ドイツワイン協会連合会会長)にもご参加いただいて歓談した。

- 新春講演会「ドイツと日本を語りあう!」を開催。
平成28年新年会にあわせ、新春講演会をホテル椿山荘東京で1月21日に開催した。ドイツ生まれで日本が大好きなアンドレアス・メルケ氏((株)メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン社長)と、ドイツで音楽を学び、ドイツワインをこよなく愛する小柳才治氏(日本ドイツワイン協会連合会会長)の対談を行なった。両氏はドイツや日本の文化や、今年の5月末から開催される世界最大規模の印刷機材の展示会である“drupa2016”などについて、それぞれの立場から熱っぽく語った。今回の新春講演会では初めての企画として、講師の小柳才治氏の推薦でベ



新春講演会

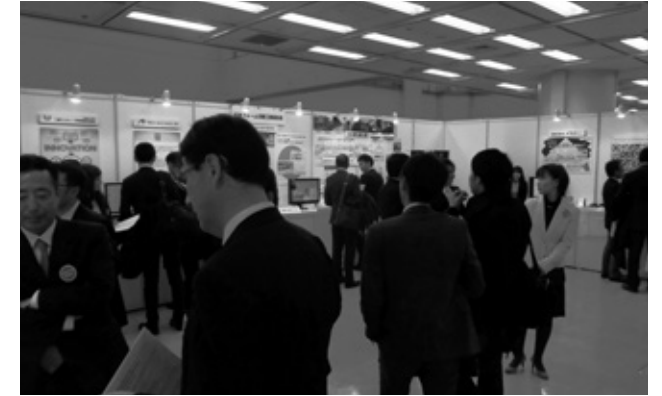
- ートーベンゆかりの醸造所で極少量作られ、日本では入手が難しい「ベートーベン・リースリング・ゼクト」を聴講者全員に味わっていただいた。
- 創立50周年記念事業として、国際総合印刷機材展“IGAS2015”に出展。

9月11日～16日までの6日間、東京ビッグサイトで開催された“IGAS2015”には323社が出展され、約57,000人の方々が来場された。日本フォーム印刷工業連合会のブースは東館6ホール9に出展し、全国の会員企業を代表して11社(トッパン・フォームズ(株)、(株)イセトー、小林クリエイト(株)、光ビジネスフォーム(株)、(株)恵和ビジネス、レスター工業(株)、(株)やまとカーボン社、野崎工業(株)、太平洋印刷(株)、三郷コンピュータ印刷(株)、(株)プロゴワス)及び1地区(東北フォーム印刷工業会)からご協力をいただき、特徴ある製品の紹介や、今各社が取り組まれているビジネスについて紹介をいただきました。事務局からの展示は、印刷情報産業として独自の進展を遂げたビジネスフォーム印刷の「あゆみ」についてパネル展示を行なった。



IGAS2015 展示会

- 今年も印刷技術展示会“page2016”に出展。
今回で29回目を迎える“page2016”が、2月3日から3日間、池袋サンシャインシティ・コンベンションセンターで、「未来を創る—メディアビジネスの可能性を拓ける—」をテーマに開催され、日本フォーム印刷工業連合会として今年も出展。出展参加をいただいた各社は、トッパン・フォームズ(株)、(株)イセトー、(株)昇寿堂、(株)木万屋商会、三郷コンピュータ印刷(株)(みさとみらい21)、太平洋印刷(株)、UCDA、PODiと6社2団体からのご協力をいただいた。今年の“page2016”は、出展社数が過去2番目に多く145社からの出展になり、来場者数もpage事務局の発表では昨年より3.5%増加し、70,370人との報告があった。今年のフォーム工連の出展場所は会場4階になり、テーブル展示ではあ



page2016 展示会

るものの、広いスペースが確保でき、出展いただいた各社からの評判も良かった。

- 「2015年版ISO改訂説明会」を開催するとともに、世界初の印刷産業向けISO14001として、「環境マネジメントシステムとGP認定制度との融合」を発表。

3月25日、日本印刷会館で約80名が参加して、2015年版 ISO9001・ISO14001改訂についての説明会を開催した。冒頭、世界初となる「印刷産業向けISO14001」について、日本印刷産業連合会の福島薫常務理事から、2015年版ISO14001とGP認定制度の融合について、その意義や今後の影響などが語られた。改訂の解説は、PGネットシステムの阿部和由社長と、ISO適合性評価機関のアイ・シー・エル東京営業支社長の藤木廣光氏が行った。2008年版品質マネジメントシステムのISO9001は7年ぶりで、2004年版環境マネジメントシステムのISO14001については、11年ぶりに大幅な見直しが行われた。現在持っている認証登録が2018年9月14日を過ぎてしまうと失効してしまう。是正処置の期間に1ヵ月、認定書が届くまでに1ヵ月を要するので、移行審査の受審期限は2018年7月14日と心得てほしい。また、内部監査員も2015年版と2008年版、2004年版規格の差分を理解する差分教育を受講し、修了しておくことが必要。今後、



ISO 改訂説明会

2015年版への改訂対応でも会員企業に対して各種の支援を行なっていく予定である。

- ・会報『フォーム印刷』384号～387号を発行。また、逐次ホームページを更新し、日本フォーム印刷工業連合会の活動内容および関連情報を発信した。

資材委員会

- ・用紙需給状況、景気指標、製紙産業景況感調査等を調査し、毎理事会へ報告すると共に、会報、ホームページ等を通じ会員へ周知し、印刷インキ、段ボール原紙等の印刷資材についても需給動向を毎月理事会で報告した。

- ・日本製紙連合会との交流

日本製紙連合会の広報活動として行なっている「ペーパー君の紙レポート」を紹介。

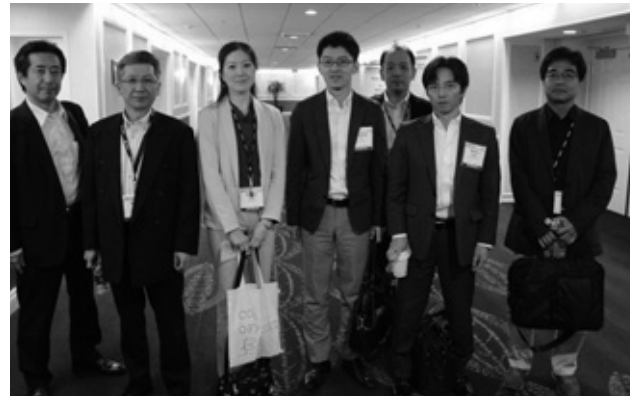
紙媒体及びデジタル媒体の利用に関する意識・実態調査を2015年11月に実施。この調査報告を「ペーパー君の紙レポート」として発表した。この報告では「書籍」「雑誌」「漫画」は、約8割もの人が「紙で読みたい」と答えており、「地図」や「簡単なメッセージ」は「デジタル化して使いたい」という人が多い。紙媒体の魅力について聞いてみると、「さわり心地」や「目に優しい」「温かみ」などが上位。デジタル媒体の魅力については、「持ち運びのしやすさ」や「保存のしやすさ」など、その便利さに魅力を感じている。また、2016年のスケジュール管理に使うツールを聞くと、4割以上もの人が「手帳」と答えている。世代別で見ると、20代は半数以上が「手帳」を支持し、「手帳」を選ぶ理由は「慣れ・親しみ」、「書き込みたいから」。デジタルでスケジュール管理をする人の理由は、「アクセスのしやすさ」や「修正の容易さ」を挙げている。次年度は日本製紙連合会との交流をさらに進めたい。

国際委員会

- ・米国印刷関連情報のレポート、及びPODi事例情報を作成し、毎理事会に報告した。また、会報「フォーム印刷」にも毎回「北米印刷事情レポート」を掲載する。

- ・“AppForum2015”ツアーに参加

PODiは、会員が集まって成功事例を共有し、最新の業界動向を探るフォーラム「AppForum」を年に一度行っている。2015年に開催された“AppForum2015”には、5月10日(日)から15日(金)までのツアーに7名が参加して、米国の印刷業界の今後の動きを把握することができた。参加者のま



AppForum2015の参加者

めとして「日本においてもコミュニケーションのデジタル化は今後益々進んでいく。しかし、デジタルファーストとなってもコンテンツを差別化するための印刷の価値は変わらない。デジタルとともに生き、その流れを受け止めるために、印刷企業は業態を変革し、顧客の立場に立って必要とされる効果を提供する、マーケティング・サービス・プロバイダーにならなければならない。そのためには、提供するサービスを拡張し、意識改革のための教育を徹底し、顧客へのソリューション提案から効果を生み出すべく、PODi等から提供されるケーススタディを活用していきたい」と報告された。

市場調査委員会

- ・業界紙にも取り上げられ、内容の充実した資料となっている「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」の平成27年度版を発行すべく、全会員に対してアンケートを実施し、11月1日に発行した。

- ・「市場アンケート調査報告セミナー」を開催。

10月29日、日本印刷会館において、約100名が参加して「市場アンケート調査報告セミナー」を開催した。毎年、会員企業120社に調査票を送し、アンケートを実施しているが、本年は57社から回



市場アンケート調査報告セミナー

答をいただき、『フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書』として11月に発行した。この調査報告書を基に市場調査委員長の石井啓太氏が概要を説明した。また、印刷技術協会(JAGAT)が毎年発行している『JAGAT印刷産業経営動向調査2015』について、同協会研究調査部長主幹研究員の藤井建人氏が報告。さらに特別講演として、『一般印刷の先一ビジネスを成長に導くDMの先進事例』をウィル・マンスフィールド氏(イーストマンコダックエンタープライズインクジェットシステム事業部ワールドワイドセールス&マーケティングディレクター)が講演した。『フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書』の資料に沿って石井委員長から調査集計の概要を報告。回答55社のうち2,000万円未満17社(昨年回答15社)、2,000万円以上5,000万円未満20社(昨年回答19社)、5,000万円以上2億円未満12社(昨年14社)、2億円以上6社(昨年回答13社)と、規模の大きな企業からの回答が減少。地域的に見ると、関東地区からの回答は23社(昨年27社)、関西地区11社(昨年13社)と大都市圏の企業からの回答が減少した。注目の売上の推移については、10%以上増加した企業が4社(昨年6社)と減少し、10%以上減少したと回答した企業が9社(昨年5社)と増加している。また、経常利益については、20%以上増加した企業が5社(昨年14社)、10%以上20%未満の企業が4社(昨年9社)と減少し、20%以上減少したと回答した企業が10社(昨年3社)と大幅に増加している。これらの要因は、前年度の消費増税に関する受注の影響が考えられると報告した。藤井氏は『JAGAT印刷産業経営動向調査2015』から印刷経営と戦略、設備の最新動向で、縮小均衡から拡大再生産へ動いていることを示し、設備等の投資意欲が4年ぶりに拡大傾向にあり、設備投資として速乾性UV印刷機、ハイエンドデジタル機。投資重点対象は人材、デザイン、後加工、Webになってきている。印刷経営の方向性は、縮小均衡から拡大再生産へ向かうための投資再開、生産性改善、従業員配分増加を挙げ、上流から下流の加工・配送までワンストップサービスの実施、さらには、印刷事業以外の領域も視野に入れた脱印刷志向や、再成長のための戦略の再構築について具体的な数値を例に解説した。特別講演の講師のウィル・マンスフィールド氏(イーストマンコダック社)は、アメリカやカナダで同社の高速インクジェット印刷機を使用したビジネス展開やバリエーション、特にDMの先進事例を挙げて紹介した。コダックの独自

調査では世界の印刷市場において、オフセット印刷で刷られた枚数は2011年で約30兆枚。2016年では約29兆枚と横ばいであると予測している。一方、デジタル印刷は大きな伸びを見せ、2016年までの5年間で60%の増加を見込んでいる。特にインクジェットは“drupa2008”以来確実な伸びを示して、世界の市場規模は約10兆円に近い市場規模になっている。特に、大きなビジネス成長を予測している分野は、「雑誌(マガジン)」と「カタログ」を合わせた「マガログ」であると紹介した。

技術委員会

- ・技術委員会の定例会として年間8回開催し、技術セミナーの開催企画及び内容の打合せ、さらに受講者アンケートの集計及び質問への回答内容の打ち合わせを行う。

技術委員会では国際委員会と共催して、7月2日に日本印刷会館で、海外におけるデジタル印刷の先端導入事例を紹介するセミナー「産業用インクジェットは『もはや潮流ではない。爆発だ!』」を開催。講師はインクジェット印刷機を海外販売している5社(キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ(株)、コダック合同会社、(株)日本HP、富士ゼロックス(株)、(株)リコー)に登壇いただき、インクジェット印刷機を取り巻く環境や導入事例、技術などを報告して頂いた。当初160名の予定でセミナー募集を開始したが、250名を超える方から参加希望があり、1社からの参加人数を制限させていただくとともに、開催会場の予備椅子を全て出すほどの大盛況だった。キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ社は昨年4月に昭和情報機器と日本オセ、キヤノンプリントスクエアの3社が統合して設立され、次の導入事例を紹介した。ドイツ・ミュンヘンのBOSCH Druck社は、100年以上の歴史のある老舗印刷会社であるが、自動車のマニュアルの



産業用インクジェットは「もはや潮流ではない。爆発だ!」

発行をインクジェットによる印刷に切り替え、欧州で必要な多言語化の小ロット印刷で効果を発揮している。また、通販カタログを印刷しているDPG社は、コピーショップとしてスタートした会社。平均部数が84部という少量に対応しており、FacebookやInstagramからアルバムを作成するシステムを、インクジェット印刷機を中心として構築していると報告。コダック合同会社は、欧米でのインクジェット印刷機の導入事例を紹介した。Mercury社ではコダック「Prosper 5000Xli」を導入し、1,500冊以下ではオフセット印刷から、100冊以上では電子写真方式のデジタル印刷機から、インクジェット印刷機での印刷に切り替えている。印刷のランニングコストは電子写真方式の4分の1に、生産性は30倍に改善される。欧米ではインクジェット印刷機によるバリエーション印刷が一般的になっており、これを使ったワン・ツー・ワンマーケティングが当たり前だ。これまではオフセット印刷に可変情報をモノクロのインクジェット機での追い刷りが中心だったが、白紙化・フルカラー化する工場現場が増加している。ドイツのaxel apringer社での大衆紙「Bild」の例を紹介した。インクジェット機によるバリエーション印刷で新聞紙面に“ビンゴ”や“宝くじ”を掲載することにより、1回の新聞発行で1,000万円売り上げを上乗せできる。また、隣接する広告の閲覧率を高めることができるとの検証結果も報告した。この取り組みは日本の新聞でも行われており、広告接触率が数倍から数十倍になるとの結果が出ている。可変印刷によるプレゼント企画は、印刷媒体において今後有効な広告手法となると説明した。日本HPは、導入事例としてイタリアのCSQ社では、全てデジタル印刷機による可変印刷で、地域限定紙面作りで活用していることを紹介した。この「ハイパーローカライゼーション」と呼ばれる取り組みにより、広告収入が325%増加した。「結局、新聞の読者は、自分に関連性が深いことに多くの興味を割いて、身近な情報を中心に見ている。今後ますます、デジタル印刷の活躍する場は拡大していく。また、インクジェットの爆発は既に始まっている」と結論づけた。富士ゼロックス(株)は、オーストラリアのユーザーを紹介し、同社ではオフセット印刷とモノクロプリントやトナー機のカラープリントとの組み合わせで製品を製造しているが、これをインクジェット印刷機に切り替え、中小ロットの出版物への対応を考えている。タイのユーザーは、モノクロトナー機からの脱却と、デジタルカラーの仕事を取得するため。マレーシア

のユーザーでは小ロットの出版について、製本工程の改善、コンテンツの充実、マーケティングへの活用として、インクジェット印刷機を導入している。このようにデジタル印刷は大波で、印刷業界をすべて変えてしまうほどのインパクトを持っていると結論付けた。(株)リコーは、オランダの印刷会社であるZalsman社は、1857年に設立したファミリー会社で、売上は年間30億円の規模の会社。同社はオフセット印刷機を7台、電子写真方式のカット紙デジタル印刷機を4台導入しているが、2010年に初めて連続紙用デジタル印刷機を導入。そして、5年後の今日では、オフセット印刷とデジタル印刷の売上比率は8対2になって、デジタル印刷の売上は順調に増加した。そして、同社はVC60000の第1号機を導入し、デジタル印刷の生産量と効率化を構築したいと考えている。さらに、フィンランドのヘルシンキに本社を構えるHansaPrint社は北欧ではリーディングカンパニーで、従業員数は約350名、年間の売上は約100億円の印刷企業の導入事例を紹介。同社はトナータイプのシートカット印刷設備、連続紙用インクジェット印刷機を導入し、印刷を中心とした総合企業を目指しており、パーソナルコード付きDMの発送や、パーソナライズ雑誌の作成や発送、フィンランドで有名な宝石店のDMデザインや店頭販促物の提供等、プロモーションやマーケティング分野も手掛けていると報告。

・ビッグデータを分析する「Excel Power Pivot活用実践講座」

10月23日に日本印刷会館において、「Excel Power Pivot活用実践講座」開催した。「Excel Power Pivot」はMicrosoft Excel(2010以降)にアドインすることができ、無料でありながら、多量のビッグデータを分析することができる素晴らしいツール。実習に先駆けて、講師のデータマーケターの内野明彦氏は、Power Pivotを使った絵本通販サイトの顧客



Excel Power Pivot 活用実践講座

分析(カスタマージャーニー)実績を取り上げ、初回利用者の購入傾向データをPower Pivotに入れて分析・可視化し、どうすればリピート購入に繋がるのかを提案した事例を紹介した。「Power Pivotでは現実的に数千万レコード級のビッグデータ処理が可能で、ビッグデータの分析には具体性と説得力も伴う。低価格かつ親しみのあるExcel機能のアドインを使ったPower Pivotは、ビッグデータを扱ったマーケティングのスタート&サクセスに繋げやすい」と提案した。今回の講座では、各自Power PivotをアドインしたPCを持参し、模擬データを用いながら、さまざまな分析を実践し実習した。

・美術鑑賞も加えた「施設見学会」ツアーを実施。

技術委員会が主催して12月4日、千葉県の(株)東京機械製作所かずさテクノセンター、DIC(株)の総合研究所・川村記念美術館を巡る「施設見学会」を開催し、参加者41名が最新の技術動向を学ぶとともに、美術鑑賞を行なった。技術委員会では毎年、見学会を企画し、印刷関連のさまざま技術情報を伝えているが、今回は新聞専用デジタル印刷機として、(株)ハワイ報知社をはじめ、海外の新聞社で導入されている「JET LEADER」シリーズを開発・製造している(株)東京機械製作所かずさテクノセンターを訪問。さらに、印刷インキの製造から基礎素材である有機顔料や合成樹脂事業だけでなく、エレクトロニクス分野から生活分野まで、多様な領域を手掛けているDIC(株)の総合研究所と、隣接されているDIC川村記念美術館を訪問した。かずさテクノセンターは、千葉県木更津市のかずさアカデミアパークに建設され、2011年から本格稼働を開始した。総面積は約10万5,000㎡(約3万2,000坪)、その敷地内に



施設見学会ツアー

研究開発施設、機械加工工場、組み立て工場などを備え、時代の変化に即応した最先端の研究・生産体制を構築している。工場見学では機械の加工エリアや組み立てエリアを回るとともに、「JANPS2015」(新聞制作技術展)や「IGAS2015」で紹介されたデジタル印刷機「JET LEADER 1500/2000」の実働を見学した。工場前で撮影した記念写真を紙面に入れ、参加者の名前・企業名をバリエーション印刷し、ランダムによる抽選くじの結果を合わせて印刷するというパーソナライズ性を披露した。DICグループの研究施設は国内外16箇所にあるが、今回訪問したDIC総合研究所は、R&D(研究開発)本部としての役目を果たしながら、基礎研究ならびに調査研究を中心に引き受けている。研究所の所内見学では、原子や分子といったレベルまでミクロに見るNMR(核磁気共鳴)装置をはじめとした、世界トップレベルの設備が紹介され、質疑応答の時間では参加者からもさまざまな質問が飛び交った。DIC川村記念美術館はDICグループが収集した美術品を公開するために、1990年5月に総合研究所に隣接する形で開館。モネやルノワールの印象派絵画から、ピカソ、シャガールなどの西洋近代美術だけでなく、日本の屏風絵や20世紀後半のアメリカ美術まで幅広いジャンルの作品を収蔵している。

環境委員会

・第14回印刷産業環境優良工場表彰について、会員企業へ応募促進の働き掛けを行なった。

今回、日本フォーム印刷工業連合会からは、一般部門でトッパン・フォームズ東海株式会社 静岡工場、新たに開設された小規模事業所振興部門では、株式会社木万屋商会 市川工場が日本印刷産業連合会会長賞とともに受賞された。

・世界初となる「印刷産業向けISO14001」のパイロット事業として参画して、2015年版ISO14001とGP認定



印刷産業向け ISO14001 取得講座

制度を融合したISO14001の認証取得に取り組んだ。

今回の「印刷産業向けISO14001」パイロット事業の意義や今後の影響について、日本印刷産業連合会の福島薫常務理事は、「環境を配慮した印刷業界基準であるGP認定制度と2015年版環境マネジメントシステムであるISO14001とをリンクさせ、経営方針と業務遂行の統合管理を実現し、企業の負担軽減を図りたい。そこで、ISO14001のプロセスにGP認定要求事項を組み込み、統合したマニュアルの作成の実証実験を、日印産連、フォーム工連、ISO審査機関、GP認定審査事務局の4者が協力し、他業界に先駆けて、世界でも例の少ない業界基準のISO14001を5月には完成する」とISO改訂講座で発表された。今後、環境委員会としても会員に「ISO14001とGP認定制度を融合した2015年版ISO14001」紹介していく。

協力行事報告

・日本印刷産業連合会「設立30周年記念式典 2015年印刷文化典」に参画。

ホテルニューオータニにおいて10団体会員をはじめ各界からの来賓、関連企業から約700名が出席され、「設立30周年記念式典 2015年印刷文化典」が実施された。記念式典の冒頭、主催者を代表して挨拶した稲木会長は、「社会・経済は大きく変化し、印刷産業を取り巻く環境も激変した」と、過去30年を振り返った上で、設立30周年を記念して日印産連が策定した「グランドデザイン」について話された。「従来の活動や組織、予算などを抜本的に見直し、役割や活動テーマを再構築することを目的としている」と、その骨子を説明した上で、今年を「グランドデザイン元年」とし、「数年度にわたる事業計画を着実に遂行し、『印刷産業を未来にリードする団体』を目指し活動を展開していく」との方針を示した。

日印産連表彰では印刷文化賞5氏をそれぞれ表彰。印刷功労賞14氏を代表して日本フォーム印刷

工業連合会副会長の小谷達雄氏((株)イセトー代表取締役会長)、印刷振興賞22氏を代表して渡部俊氏(松栄印刷(有)代表取締役)と松本峰包氏(松本製本(株)代表取締役)が受賞された。

日本フォーム印刷工業連合会からは佐久間信幸氏((株)日進堂印刷所代表取締役社長)、太田真義氏(セイコービジネス(株)専務取締役)、鈴木茂樹氏(トッパン・フォームズ(株)総務本部CSR推進部担当部長)が印刷振興賞を受賞された。

第14回印刷産業環境優良工場表彰では、経済産業大臣賞を(株)笠間製本印刷、経済産業省商務情報政策局長賞を(株)光邦 新座工場と池田印刷(株)京浜島工場が受賞され、日本印刷産業連合会会長賞5工場、特別賞2工場、奨励賞11工場((株)ローヤル企画 真岡工場が代表受賞)に賞状が贈られた。

日本フォーム印刷工業連合会からは一般部門で、トッパン・フォームズ東海株式会社 静岡工場、小規模事業所振興部門では、株式会社木万屋商会 市川工場が、日本印刷産業連合会会長賞とともに受賞された。

・日本印刷産業連合会2016年新年交歓会。

1月8日にホテルオークラにおいて開催された、日本印刷産業連合会の2016年新年交歓会に参画した。今年の新年交歓会には政界・官界ほか多数の来賓、加盟10団体の関係者から700名が出席のもと盛大に行われた。冒頭、新年の挨拶に立った稲木会長は、印刷産業の未来を見据えて策定したグランドデザインについてふれ、「初年度は、グランドデザインの目的に応じて組織を見直し、5つの常設委員会と11部会の体制に再編した」と、これまでの活動実績について報告した上で、「今年は、グランドデザインを実行し、活動を深化させる年となった。印刷産業を未来にリードする団体を目指して、着実にあゆみを進め、グランドデザインを成功させるため、引き続き努力していく」と、2年目を迎えるグランドデザインへの取り組みを話された。



設立30周年記念式典
2015年印刷文化典

■第2号議案「平成28年度日本フォーム印刷工業連合会事業計画」

業界発展のために、印刷産業の各社が「成長戦略」として、「新しい商品や製品の開発」「提案力の強化」「セキュリティ体制の整備」等への取り組みと、「経営基盤」の強化として「財務内容の見直し」を進め、総合的な発展を会員各社が図るべく、平成28年度は以下の項目を重点的に推進します。

1. 日印産連事業活動へ積極的な参画

主要構成員として、日印産連が進める「グランドデザイン」事業活動へ積極的に参画し、企業の社会的責任と印刷産業の果たすべき役割について、理事会、広報活動を通じ、会員への周知と啓蒙を行うとともに、日印産連が主催するセミナーや報告会、各種行事へ積極的な参加を進め、様々な業種や他団体との交流を図ります。

2. 委員会活動による課題の討議と諸施策を実施する業務委員会

- ・各工業会との交流を深め、会員増強、工業会活動活性化の具体策を検討し実施する。企業経営に関する講演会・セミナーを最低年2回実施。
- ・夏季講演会(8月25日にホテル椿山荘東京にて開催)講師：折形礼法の宗主 山根一城氏。
- ・女性活躍推進への取り組み。

本年4月1日から労働者301人以上の企業は、女性の活躍推進に向けた行動計画の策定などが義務づけられるが、中小規模の企業においても努力義務が課せられているので、女性活躍推進に向けた取り組みを支援する企画を実施する。

- ・2015年版ISO9001及びGP+ISO14001認定・改訂支援。

大幅に改訂された2015年版ISO9001(品質マネジメントシステム)への改訂支援、及び日本印刷産業連合会が進めるグリーンプリンティング認定(GP認定)とISO14001(環境マネジメントシステム)を融合させた、印刷産業向けISO14001の紹介活動を環境委員会と共同で行なう。

ISO活動の支援のため、内部監査要員の増強と2015年版ISOに対して差分教育を実施し、内部監査員のレベルアップによる経営基盤の強化と企業活動活性化を図る。

改訂の準備施策と、2008年度版ISO9001内部監査員養成講座を6月24日・25日に開催し、内部監査院の充実を支援する。

- ・広報活動の充実を図る。

タイムリーなホームページ内容更新の実施会報「フォーム印刷」の定期発行(4回/年)。

“page2017”への出展(2017年2月8日～10日開催予定)。

資材委員会

- ・用紙事情調査を継続実施し、理事会等を通じ資材動向を伝える。
- ・会員企業社員の資材知識向上のため、工場見学・セミナー、用紙及び補助資材等に関する勉強会を環境委員会と共同で実施する。
- ・損紙削減施策について技術委員会と共同での取り組み。

印刷立ち上げ改善による損紙低減を目指し、技術委員会と共同で、各種設備について勉強会を実施する。(9月にアイマー・プランニング自動化設備の実績報告及び見学会を実施予定)。

- ・補助資材等についての調達サポートの取り組み。

補助資材(インキ・版材・プランケット・各種洗浄剤・H液添加剤等)について、安全でより適切な資材(GP資機材認定品の拡大)を環境委員会と共同して計画する。

国際委員会

- ・海外フォーム印刷事情を調査、分析し、理事会報告を通じ会員へ伝える。

北米印刷事情レポート(PODi What They Think)を継続発行し、海外で大きく導入が進んでいるデジタルマーケティング分野の最新情報を記載する。

- ・海外展示会への参加及び情報発信。

drupa2016視察ツアー(6月5日～12日 日本フォーム工連主催視察ツアー)。

「drupa2016視察報告会」を6月30日(木)に日本印刷会館会議室で開催。

LabelexpoAMERICAS(シカゴ)9月13日～15日(ラベルエキスポアメリカ視察ツアー 9月12日～19日 ラベル新聞社主催ツアー)

GRAPH EXPO2016(オランダ)9月25日～28日

- ・海外企業、団体との交流を図る。

中華人民共和国BF印刷分会との継続的な交流。

台北印刷工業技術中心との交流。

中国印刷関連団体日本事務所からの情報入手。

米国印刷関連情報サイトPIA及びWhat They

Thinkからの情報発信。

市場調査委員会

- ・市場動向を調査分析し、調査報告書等を通じ会員へ

■日 時 平成28年4月14日(木) 午後1時30分

■場 所 日本印刷会館2階201会議室

■出席者(22名)

櫻井会長、小谷副会長、小林副会長、林副会長、玉田常任理事、山本常任理事、松川常任理事、大門常任理事、入野常任理事、溝口常任理事、太田常任理事、和田常任理事、福田常任理事、佐々木常任理事、福武理事、坊野理事、朝日理事、渡辺理事、西村理事、岡田監事、千葉監事、山口(専務理事事務局)

議 題 ①平成27年度決算報告・平成28年予算概要と新体制案について

②委員会報告

③日本印刷産業連合会等関連報告

④各フォーム印刷工業会からの報告

議 事 冒頭、櫻井会長の開会挨拶があり議事に入った。

【櫻井会長挨拶骨子】

皆さん、こんにちは。おめでとうございます。非常に重要な第1回の、正直いえば、第1回だけが重要——なんて、そういうことを私が言っただけではいけないですね。1回目というのは、いろいろな理事が集まったり、いろいろありますので非常に重要だと思います。ということで、これから進めていきたいと思っています。

日本全体の経済がどうのこうのという話は、皆さんは経営のトップの方ばかりなので、もう十分わかっていると思いますので省かせていただきます。その中であって、やはり一番大切なのは成長戦略だということを、私はいろいろな機会に、社内でも外でも話しているのです。そのときに、絞り込むのか、広げていくのかということですが、やたらと広げていっても意味がないわけです。我々は、フォーム工業界というのは特殊なポジションにあるのです。例えば、きょうも海外旅行とか、いろいろな例が出るかもわかりませんが、海外などはまさにフォーム印刷出身の企業が生き残っている。もともと一般商印の会社が分割していく。米国の大手印刷会社のドネリーなんかもそうですよね。分割して、スピンアウトで、もう別会社になってしまうわけです。ドネリーは今まで1社だったのが3つになる。しかし、ドネリーとしてのメインは何かといたら、フォーム企業が取り組んでいるパーソナル印刷。こういうようなところに、我々はポジションとしているわけですから、ぜひともそれを大切にやっていきたいなと思います。

必ずや大きな波が来ますよ。将来的には、日産連＝フォーム工連になるのではないかと、そのくらいのパワーを持ちたいなと思います。

先ほど言いましたように、新たな新年度がスタートする上で改選期にあたるわけです。平成28年度は2年ごとの改選期にあたるので、理事の推薦をお願いして、皆さんにご提案をいただいて、本当にありがとうございます



櫻井会長

た。正式には5月26日開催の通常総会で承認決定となりますが、後ほど理事と会長、副会長の候補を発表させていただきたいと思っています。

また、この資料にいろいろDM成功事例とか、資料がいっぱいあるのですが、うちのフォーム工連は凄いなというのは、この資料の多さ(笑)。レベルの高さで、これを読むだけでも大変です。

この中で一番私のお勧めは、これだけ。DMに対してものすごい雰囲気が変わってきました。これは新聞で読んでいますよね。DMセミナーというのがありますが、うちの会社もDMの国際エコ賞というのがありますが、それを今年取りました。国際エコ賞とアメリカの郵便大賞というのを両方取っています。それも全部DMです。

DMがどういふふうになったかという、私信としてのDMが多くなっているのかな。だから、もらう人が「すごくうれしい」という意見が出てきているのです。ですから逆に、お父さんやお母さんが娘のDMを開けてしまったりすると、娘が怒る。「これは私宛てのDMだ」と。そういう時代です。今までは、DMというと粗大ゴミで、開けもしないで捨ててしまうという時代だったのが、DMをもらうとうれしいという若い人たちがいっぱい増えた。それはなぜかと思ったら、やはりその人にふさわしいDMを送ろうとしている、それが伝わっていている。これは、アメリカもそういう傾向です。

DMがどんどん増えていって、これからの大きな潮流となるのは、DMとパーソナル印刷だと。マスはもうだめだというような話です。そうすると何となく、皆さんの胸の中で、オーッと。おれのところもやっつけかなと。やっつけに決まっているのでね。ぜひともそういう

の事業方向性を提示する。

アンケート調査を実施し、調査結果の分析と報告書を作成し(2016年度版を10月末発行予定)、10月末には調査報告発行セミナーを開催する。

・市場における共通課題を抽出し、分析及び対応指針を示す。

・市場に対して積極的な活動が行なえる情報提供を行なう。

8月1日に「発明視点による市場創出セミナー」を開催する。

・資格認定についての勉強会及びセミナーの開催。

JTDNA(日本テクニカルデザイナーズ協会):PL資格認定

JPM(日本プロモーション・マーケティング協会):マーケター認証資格。

JDMA(日本ダイレクトメール協会)との連携により「DM成功事例セミナー」へ協賛(5月28日開催)

8月8日に技術委員会との共催でJDMA専務理事の椎名氏からご講演をいただく予定。

UCDA(ユニバーサルコミュニケーションデザイン):認定資格

・ビクデータ・マーケティングオートメーションへの取り組み。

8月8日に技術委員会との共催でテキストデータによる人工知能KIBITをセミナーにて紹介予定。

マーケティングオートメーションに関する勉強会及びセミナーを開催。

技術委員会

・技術面から見た業界の進む方向を協議しセミナー、見学会等を企画し実施する。

印刷技術、環境、生産性等、現場で解決すべき問題点を洗い出し、セミナー及び勉強会の開催。

・6月30日に開催するdrupa2016視察報告会で最新の産業用インクジェット機について報告する。

・9月には資材委員会との共催で、オフセット印刷のインキ供給の自動化システムの見学会と、導入報告セミナーを実施予定。

・8月8日に市場調査委員会との共催で『知っておきたい!この知識』を開催し、人工知能KIBITの紹介、GS-1バーコードの知識、DMを支えるデジタルマーケティング等を紹介する。

■第3号議案「任期満了に伴う役員改選の件」

規約第13条により役員の任期は2年で通常総会終了の時をもって全員任期満了となる。平成28年度の役員候補者は、規約第12条1項および5項により理

・Web対応ソフト等、データプリントとWebビジネスを結ぶIT技術についてのセミナーを開催。

・GS1や標準EDIの普及推進と拡大に取り組んでいる物流開発センターとの交流。

・日本印刷産業連合会、印刷学会、印刷技術協会(JAGAT)、印刷産業機械工業会、PODiJAPAN等と提携し、各種情報を提供する。

環境委員会

・GP工場認定証制度の普及啓蒙と認定・認証の取得しやすい環境作り、情報提供を通じ取得支援を行なう。

・ISO14001取得会員については、改訂時期を迎えている2015年版への改訂対応として、日産連と共同で構築した印刷産業向けISO14001(環境マネジメントシステム+グリーンプリンティング認定)への改訂支援を行なう。

・環境優良工場表彰申請への応募を促進する。

技術的及び申請に関する支援の実施(応募目標社数3社)

・工場作業現場の環境改善を推進する。

資材委員会と環境関連の施設見学会を実施。

会員各社にVOC警報器の導入促進を支援する。

・グリーンプリンティング資機材認定制度の普及啓蒙と活用により、環境により優しい職場環境に挑戦する。

会員各社が購入する印刷資機材に対し、グリーン基準に適合した資機材が容易に選択できるこの制度を、会員及び特別会員の活用を促す。

・印刷産業全体で進めるCO₂削減活動、廃棄物削減活動(地球温暖化対策・循環型社会形成の自主行動計画)を推進する。

日産連自主行動計画への参加。

CO₂削減、廃棄物削減の実態把握と情報共有。

理事会

・業界及び工連運営に関わる重要事項を協議決定する理事会を定期開催し、会報及びホームページ等を通じ会員に周知する。

・理事会への出席が難しい地方理事及び役員に対して、審議項目についてはUstreamによる同時配信も実施する。

・業界の発展、社会貢献の方向性を探る政治経済動向、社会的責任課題等についての理事研修会を企画し実施する。

事候補者28名、監事候補者2名が各フォーム印刷工業会から選出され、全員が承認された。

以上をもって平成28年度通常総会は終了した。

ことで頑張っていきたいと思います。

その他の情報は、いろいろありますが、これは事務局に任せています。やらなければいけないことは最低限やっておいてください。それしか申し述べることはないのです。

それとあと、初めに言ったように、このフォーム工連の活動は、いろいろな所が見ています。デジタル印刷機屋さんとかが、熱いまなざしで見えています。ぜひともそれをうまく利用してください。それとあと、新規参入もこれから来るでしょう。そのときに一致団結して頑張っていきたいと思いますので、よろしく願います。今日も活発なご意見をお願いします。

1 平成27年度決算報告・平成28年予算概要と新体制案について

平成28年度通常総会に上程する平成27年度決算報告並びに平成28年予算概要と新体制案について、説明と審議を行なった。

2 委員会報告

❖業務委員会（玉田委員長報告）

- ・3月度月次計算について
- ・平成28年度会議日程(案)について

❖国際委員会（松川委員長報告）

- ・米国印刷事情レポートについて
- 「中小企業市場へのマーケティングサービスのビジネスチャンス」
- 中小企業は、DMであろうと、ネットであろうと、小売であろうと、ひとつのチャンネルを通じて提供される製品を、どのように成功させるかに支援を求めている。さらに、これを二つ以上のチャンネルを通じて、マーケティングを展開したいとも思っている。ただ、彼らはそれを自分達で実行する時間もお金もない。彼らに測定可能なデジタルのマーケティングを業種別に、あるいは水平展開できるアプリケーションを提供することができるなら、その印刷会社は2016年の勝者となろう。これには、中小企業の市場について熟知し、創造的な市場展開戦略が必要である。個々は小さな仕事量であるが、中小企業市場の案件をかき集めることができれば、その市場を積み重ねることによって、大きなビジネスチャンスとなっていく。

「大手企業に売る」

大手企業は印刷会社に高い期待をいただいている。コンセプトの制作から、印刷物を郵送するところまで、フルレンジのサービスを提供できるパートナーを求めている。加えて、一つのチャンネルに縛られず、隔たりのない全チャンネルにおいて、コミュニケーションを行うための手助けを求めている。大手企業の戦略や方針について熟知し、測定可能なクロスチャネルアプリケーションソリューションを提供することができる印刷会社は、2016年において勝者となろう。

・drupa2016視察ツアーについて

2016年5月31日からドイツデュッセルドルフで開催される“drupa2016”と、オーストリアのDPS企業を訪問する視察ツアーを6月5日(日)～12日(日)で実施する。視察ツアー参加者に対して5月10日に説明会を実施する。ツアー実施のテロ対応として、外務省が発表している海外安全情報の基準に従って判断する。

❖資材委員会（山本委員長報告）

- ・4月度用紙事情について
- 2月度の情報用紙の国内出荷量は115,000トンで、前年同月比104.2%。用紙出荷量全体から見ると良好なようだ。感熱紙の出荷量は上昇傾向が続いている。

❖環境委員会（朝日委員長報告）

- ・GP・ISO1401統合について
- 日印産連のGP認定工場を促進するために、環境委員会として様々な対応を行なっているが、5月11日に日本印刷会館で日印産連が主催する「グリーンプリンティング、(GP)認定工場によるISO14001認証取得事例発表会」で、ISO14001との融合施策を報告する。

❖技術委員会（福武委員長報告）

- ・共催セミナー drupa2016視察報告会について
- 6月30日午後日本印刷会館において、drupa2016視察報告会を国際委員会と共同で実施することを計画。中。
- ・技術セミナー及び見学会企画について
- バーコードについての基本的な知識や、技術者として持つことが必要と思う知識を紹介するセミナーを企画し開催する。また、合理化施策や損紙対策に関する装置や施設の見学会を企画する。

3 日本印刷産業連合会等関連報告

- 事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。
- (1) 平成28年度日本印刷産業連合会事業計画について
 - (2) JFPI社会的責任報告書発行について
 - (3) 第1回女性活躍推進セミナーについて
 - (4) VOC警報器の販売状況について
 - (5) GP環境大賞の実施(案)について

4 その他資料・ご紹介

- ・書籍紹介「日本のラベル市場2016」ラベル新聞発行
- ・開催案内「インバウンド経営戦略塾」主催：ジャパンインバウンドソリューションズ

5 各フォーム印刷工業会からの報告

関東フォーム印刷工業会報告（林会長報告）

関東フォームです。前回の理事会でご報告したとおり、関東のほうは、東西南北の支部制で活動しているわけで

すが、形骸化している感がありますので、前回の理事会で支部制を止め、関東を一本にしました。この施策として活性化委員会というのを立ち上げて、いろいろ活動していただいていますので、その活性化委員会のメンバーを、従来のメンバーのほかに若い方をいろいろ増やして、内容をもう少し見直して活動していくという形で動いていきたいということでございます。

来週、関東の理事会がありますので、そのあたりを詰めてやっていければと思っています。また来月は、関東の総会ですので、その話も出てくると思っています。

北海道フォーム印刷工業会報告（渡辺副会長報告）

北海道の渡辺でございます。西会長は今回欠席ということですので、私が代理としてご報告申し上げます。特に活動的にはなくて、今月の22日(金)にちょっと早めに北海道の総会を開催して、今のところ、そこで会長、副会長が改選される予定というところでもあります。

東北フォーム印刷工業会報告（大門会長報告）

先週、今年度2回目の役員会を開催しまして、以前にもご報告していたと思いますが、5月17日に山形で総会を開催する予定であります。その席になりますが、皆さま方に2年間お世話になりましたが、私から副会長の西村さんのほうに会長が代わりましたので、これからどうかよろしくお願ひしたいと思います。私も全印工連にも入っているので、いろいろな形で印刷会館に来る機会はなくなりませんので、これから、この2年で皆さま方から教わったことを役立てていきたいと思っています。どうもありがとうございました。

中部フォーム印刷工業会報告（入野会長報告）

来週、理事会と懇親会を開催する予定です。来月5月23日に総会を予定しております。記念講演と懇親会もセットで予定しております。

関西フォーム印刷工業会報告（溝口会長報告）

関西の報告をいたします。まずは、今月28日に大阪支部の例会とともに、第51回プチ勉強会を、大阪支部支部長の野崎工業(平松社長)のビッグデータサービスという部門の方に、いろいろなところで、フォーム印刷としてもいろいろな形で見直されている企業名刺について、ご報告とご講演をいただくことになっております。

5月になりまして、17日に、関西合同ゴルフコンペをいたします。いつもよりも組み数を増やしまして、8組でやろうという形です。私はゴルフをしませんので、ゴルフのコンペだけ会長が代わりまして、瀧本副会長がゴルフコンペの会長になっていただきます。

それから5月19日に堂島ホテルで定期総会を行います。定期総会のときには、定期総会講演という形で、先ほどのお話に出ました女性活躍の一環という形もあって、

元宝塚の宙組の娘役をやっておられた堀内さんに来ていただき、「宝塚102年の歴史に学ぶ組織づくりと人材育成」という形でやっております。

先日、「日本フォーム工連」のトップのところにも載せていただいておりますので、いつもどおり、ほかの地域の方々、及び関西に営業所・支店をお持ちの方々にもご参加いただきたいと思います。これは一般の方々も参加可能でございます。無料でもございますので、ご参加いただけたらと思っています。

中四国フォーム印刷工業会報告（太田会長報告）

中四国ですが、5月19日に総会があります。新しく今、推薦しております株式会社新生の湯川専務に、理事長をお願いすることになっておりますが、この20年間で初めてやられる会社ということです。若い人ですが、ぜひ温かく迎えていただきたいと思っています。

それから、先月も申しましたが、持ち回り理事会を開催するホテルの件ですが、4月10日と11日に、G7外相会合が開催されたホテルということで、その前日から誰も宿泊させずに、7名の人で宿泊設備をつくって開催したということです。5月になりますとオバマ大統領が来られるかもしれないのですが、ぜひそのホテルで開催される理事会に参加していただきたいと思っています。その影響もありまして、ホテルの宿泊代と使用料が高くなっておりまして、例年よりも参加費用が高くなりますが、ぜひ参加していただきたいと思っています。

九州フォーム印刷工業会（和田会長報告）

九州は、来月中旬に総会を行う予定になっております。ミヤコシさんに来ていただいて、「インクジェットの市場と今後の展望」ということで勉強会することになっています。会員情報ですが、九州の地元の正会員が1社また退会が出ていまして、残念ながら、もう地元の正会員は残り4社になってしまいました。4社で、あとは大手の会社の九州の支店・支社の方が協力してくださっています。特別会員の数、業者さんの数はまだ多いので運営できますが、将来的に中四国と一緒になったり、関西と一緒になったり、西日本フォーム印刷工業会になるのではないかなと思っています。そうならないように頑張っていきたいと思っています。

最後に小谷副会長より閉会挨拶があった。

「小谷副会長挨拶骨子」

本日は、平成28年度の第1回理事会ということで、お忙しい中をお集まりいただきましてありがとうございます。最初にお話があったように、新年度第1回の理事会は旧体制でということになっています。その辺が変な形ではございますが、来月、総会で新体制に移行するというでございまして。

最初のほうで専務理事から発表のありました新体制の

案であります、はっきり申し上げて、戸惑いを感じております。毎月このように皆さん方にお集まりいただき、フォーム印刷工業会さんにずっとご協力いただいておりますので、新体制に臨みたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

最初、櫻井会長からお話のあった商業印刷とフォーム印刷の違い、我々のほうがすごいんだということは、まさしくそのとおりでありまして、どんどん変わっていつている。どんどん変わっていつていることに我々も頑張っ変えていつているんだというのがございます。

実際、私がおつきあいしている海外の同業者というの



第1回理事会

も、オフセット印刷をやっていないところが結構多くなりました。それでも同業者ということで、私のところはオフセットをやっております。警報器もいるんですが、だんだんそういうふうになっていくのかなという気もしています。

それからDMも、櫻井会長がおっしゃっていますように、「パーソナライズドDM」というような言葉。「中身が一緒やからDMというのと違うの?」と私なんか思ったんですが、まさに「中身の違うパーソナライズされたDM」という「内容が別々にできている」というようなことでした。

業界はどんどん変化しております。その変化に遅れることのないように、むしろ変化は我々が創って行くんだ!、フォーム業界が創って行くんだ!という気概をもって、フォーム工連の皆さま方と一緒に頑張りたいと思っております、ということをお願いいたします。閉会の挨拶といたします。

ありがとうございました。

次回平成28年度第2回理事会は
開催日 平成28年5月26日(木)
時間 午後4時から
場所 ホテル椿山荘東京
を確認して閉会となった。

目の前には、バラ色といったらおかしいですが、茨のほうかもわからないですが、とにかくバラが咲いている。その茨の中を走っていくというのもいいじゃないですか。ぜひともそういうような、この技術、これをどうやって生かしていくか、これがやはり大きなポイントに今後ともなっていくだろうと思います。

そのために、私は、自分の持っているノウハウ、わが社の持っているノウハウをオープンにします。また、相談することがあるのだったら相談に乗りますと、皆さんに申し上げたつもりなのです。皆さんとともに底上げしていくのが私の希望だった。それがうまくいったのかどうか、小谷さんが会長なさっている間に反省を大いにし、これからも精一杯フォーム工連のために頑張りますので、今後ともよろしくお願いしたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

【小谷達雄氏就任挨拶】

ただいまご指名いただきました小谷でございます。4年前まで会長をしておりました。また昨年、功労賞をいただきまして、今後は陰ながら皆さん方のお役に立てればというふうに思っていたのですが、またこういう形でもう一度させていただくことになりました。ご指名があったからには、精一杯やらせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

櫻井会長がおっしゃったように、4年間大変立派な会長職をやっていただき、我々を引っ張っていただき、我々を元気づけていただき、フォーム工連こそ印刷業界の中でトップを走るんだ、引っ張っていくんだということを盛んに言っていました。これは事実だと思います。デジタルであるとか、印刷がどんどん幅を広くしていく中で、我々のフォーム印刷に携わっている企業メンバーの方が、どんどん新しいものに取り組んでいくということは、たぶん印刷業界の中でトップであると思っています。

なかなか櫻井会長と同じようなことはできないと思っておりますが、特に、さっきもおっしゃった、うちの会社のノウハウはどんどん使ってよと。残念ながら、イセトーにそれほどのノウハウがあるわけではございません。ただ、皆さん方一つお願いしたいことがあります。私は、櫻井会長が言われたプライド、それと情熱、英語でいうとパッションアンドプライド(passion and pride)ということになると思いますが、情熱と誇りを持って、今後とも引き続きフォーム工連の皆さまとご一緒に前に進んでいきたいと思っておりますが、ぜひここにいらっしゃる皆さま方も、皆さま方の社員の方も、フォーム工連に来てメモをして帰るということではなくて、フォーム工連に何か持ってきていただきたい。ノウハウとか、技術とか、そういうものではなくて、理事会でもご発言をいただき、さっき櫻井会長から「発言ないんですか。議論しましょうよ」というようなお話があったのですが、理事会で「こういうことをやったらどうですか」とか、「こういうふう



小谷新会長

にしましょうよ」、「こんな話がありましたよ」ということをぜひ皆さんのほうからもご発言いただき、情報を発信していただきたい。

フォーム工連は間違いなく、トッパン・フォームズさんがリーダー的な存在で引っ張っていただくということは、櫻井さんが会長をやめられても変わらないことだろうと思います。

ただ、企業の規模とか立場とか場所の問題ではなく、フォーム工連という業界を考えると、皆さま方のそれぞれがアイデアをお持ちだと思いますし、何らかの貢献をしていただけるのではないかと思います。ぜひメモを取って帰るだけの理事会ではなくて、一言でも二言でも発言をいただき、何らかの行動をフォーム工連の中でしていただくということを皆さん方をお願いをいたしまして、新年度の会長の初めての挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。(拍手)

規約第12条4項により小谷達雄会長の指名により下記の各位が就任された。

副会長	櫻井 醜	小林 友也	林 陽一
専務理事	山口 実		
常任理事	宮下 裕司	辻 史隆	松川 穰
	石井 啓太	渡辺 淳也	西村 孝之
	入野 康	溝口 剛司	湯川 真
	和田秀一郎	福田 学	佐々木 慎一

委員会規約に基づき小谷達雄会長により、委員長6名、副委員長6名、委員24名の方々に委嘱された。

◆業務委員会

委員長	宮下 裕司(トッパン・フォームズ(株))
副委員長	入野 康(小林クリエイト(株))
委員	千葉 誠((株)高速)、川口 政之(水三島紙工(株))、和田秀一郎((株)プロゴワス)、渡辺 淳也((株)恵和ビジネス)、石井 啓太(共同印刷(株))、朝日 健之((株)木万屋商会)、稲葉 義勝((株)イセトー)

◆資材委員会

委員長	辻 史隆(ビーエフ&パッケージ(株))
副委員長	坂下 正巳(光ビジネスフォーム(株))

日本フォーム印刷工業連合会 平成28年度 第2回理事会議事録

■日時 平成28年5月26日(木) 平成28年度通常総会終了後
■場所 ホテル椿山荘東京
■出席者(28名)
櫻井会長、小谷副会長、小林副会長、林副会長、山本常任理事、松川常任理事、石井常任理事、入野常任理事、溝口常任理事、太田常任理事、和田常任理事、福田常任理事、佐々木常任理事、福武理事、渡辺理事、西村理事、杉山理事、瀧本理事、坊野理事、朝日理事、岡田監事、千葉監事、宮下会員、辻会員、湯川会員、根岸会員、松田会員、山口(専務理事事務局)

- 議 題 ①会長選任の件
②副会長、専務理事、常任理事指名の件
③委員会委員委嘱の件

議 事 第1号議案 会長選任の件

会長の選任は、規約第12条3項により理事の互選となっており、4月14日に開催した平成28年度第1回理事会において、会長候補者としてご賛同いただいている小谷達雄氏を会長として推薦し、満場一致で承認された。

【櫻井醜氏退任挨拶】

ただいま、小谷会長と交代ということで、私は4年間担当させていただきました。本当にどうもありがとうございました。

皆さまのご協力なくして4年間を無事に進行すること

もできなかったらと思っています。そういう意味では、皆さま方に大いに感謝しております。

今日、いろいろと私が話したのですが、やはりフォーム工連のプライドといったらおかしいですが、自分たちが本当に世の中の最先端をいつているんだよ、ということはどうやって体験してもらおうかなというのが私のこの4年間の頭の中で考えていたことなんです。と申しますのは、決してアグレッシブの数が増えているわけではないのです。我々の発想一つ、もの見方一つで、フォーム工連という会員組織が、花を咲かす可能性を非常に秘めている。それを私がものすごく感じているわけです。それで、常に常に我々は前へ前へ進んでいく。そういうことを心がけています。

それと同じことを皆さま方も体験してほしいなど。我々

委員 吉村 泰明(カワセコンピュータサプライ(株))、
浜岡 光雄((株)木万屋商会)

◆国際委員会

委員長 松川 穰((株)イセトー)

副委員長 西出 雅一(日本電算機用品(株))

委員 嶋本 博之(東洋紙業(株))、篠崎 紀晴(ト
ッパン・フォームズ(株))

◆市場調査委員会

委員長 石井 啓太(共同印刷(株))

副委員長 三浦 龍男(小林クリエイティブ(株))

委員 小池 進(ビーエフ&パッケージ(株))、大
村 知之(トッパン・フォームズ(株))、大塚
啓史((株)イセトー)、濱辺 浩司(共同印刷
(株))、小野 章(NTT印刷(株))

◆技術委員会

委員長 福武 正廣(太平洋印刷(株))

副委員長 片山 進(東洋紙業(株))

委員 和田 英久((株)イセトー)、糟谷 宏(トッ
パン・フォームズ(株))、中神 茂(共同印刷
(株))、伊田あきら(ビーエフ&パッケージ(株))

◆環境委員会

委員長 朝日 健之((株)木万屋商会)

副委員長 関原 浩之(トッパン・フォームズ(株))

委員 望月 敏行((株)イセトー)、下村 純逸(東
洋紙業(株))、矢崎 慎一(光ビジネスフォー
ム(株))、神崎 徳三((株)木万屋商会)

理事会の最後にご退任される方々からご挨拶をいただ
いた。

山本政徳 元常任理事

ビーエフ&パッケージの山本でございます。前任から
引き続きまして、2年弱だったかと思えます。資材委員
長ということで、皆さんに毎月お話をさせていただきました
が、なかなか思い通りいなくて、今度優秀な後輩
を後任にしましたので、ぜひ今後もよろしくお願いいたします
ます。いろいろお世話になりました、ありがとうございました
(拍手)



第2回理事会

太田真義 元常任理事 (元中四国フォーム印刷工業会会長)

私は、4年間携わらせていただきまして、本当にあり
がとうございました。いろいろな人に会えたのが私の一
番うれしかったこと、宝となると思います。それと、前
会長さんが言われましたが、一番最初に「ここにおられ
る方々は一国一城の主だ」ということで「尊重します」と
いう言葉を言われたのが、私の中では印象にありまして、
4年間仕えさせていただきまして。今後ともよろしくお
願ひいたします。以上です。(拍手)

また、今年度から就任いただく方々からもご挨拶をい
ただいた。

宮下裕司 常任理事 (トッパン・フォームズ(株))

皆さん、こんにちは。この度、新任ということでまい
りましたトッパン・フォームズの宮下と申します。そこ
そこ歳は取っているのですが、業界団体の仕事は初めて
務めさせていただきます。慣れない立場なので、諸先輩
方のご指導を賜りながら勉強もして、務めさせていた
だきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

辻史隆 常任理事 (ビーエフ&パッケージ(株))

ご指名いただきましたビーエフ&パッケージ株式会社
の辻でございます。山本の後任ということで非常にプレ
ッシャーも感じております。ほとんど営業畑におりまし
て、かつ腹芸の余興しかしたことないものですから、あ
まりロジカルに活動できないかもしれませんが、なるべく
皆さまのお役に立てるように邁進していきたいと思
っております。よろしくお願いいたします。

根岸敬 理事 ((株)昇寿堂)

株式会社昇寿堂の根岸でございます。8年間、関東フ
ォームの仕事をしていただいたのですが、そろそろ日
本フォーム工連も勉強して来いと皆さんに押し出されま
して、邪魔をしないように、そして今日、櫻井会長が言
われたように、メモを取るだけではない活動を心がけて
頑張りたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします
ます。

湯川真 常任理事

中四国フォーム工業会の前任太田会長のあとを引き継
ぎまして、この度、会長ということで選任していただき
ました株式会社新生の湯川と申します。大変緊張してお
りますし、またわからないことばかりですが、今後とも
よろしくお願いいたします。

次回平成28年度第3回理事会は

開催日 平成28年6月16日(木)

時間 午後1時30分から

場所 日本印刷会館5階501会議室

を確認して閉会となった。

■日時 平成28年6月16日(木) 午後1時30分

■場所 日本印刷会館5階501会議室

■出席者(20名)

櫻井副会長、小林副会長、林副会長、宮下常任理事、辻常任理事、石井常任理事、渡辺常任理事、西村
常任理事、入野常任理事、溝口常任理事、湯川常任理事、和田常任理事、福田常任理事、佐々木常任理
事、福武理事、坊野理事、朝日理事、瀧本理事、根岸理事、山口(専務理事事務局)

議 題 ①委員会報告

②日本印刷産業連合会等関連報告

③各フォーム印刷工業会からの報告

議 事

1 委員会報告

❖業務委員会(宮下委員長報告)

・5月度月次計算について

・「発明視点による市場創出セミナー」について

市場・経営環境は大きく変化しており、従来の営業
方法や製品・サービスでは適切に対応することが難しく
なっている。そこで、新しい市場を自ら創出してい
くことが必要。そのためには、各々の顧客を惹きつけ
る魅力的な新製品・サービスを開発し、提供していく
ことが欠かせない。このセミナーでは魅力的な新製品・
サービスの元となるアイデアを、どのようにして開発
するかについて実践演習も交えて実施する。

・「ISO9001内部監査員養成講座」開催について

ISO9001を取得されている企業は3年以内に2015年
度版への改訂が必要である。この対応として内部の充
実を図るため、内部監査員の充実が必要である。そこで、
5月24日と25日の2日間の予定で内部監査員養成講座
を開催する。

❖国際委員会(山口専務理事報告)

・米国印刷事情レポートについて

Drupa2016に出展されるLanda、Xeikon、Hp、Canon、
Kodak、Fuji Filmの情報をWhatTheyThink翻訳版で紹
介する。

・drupa2016視察ツアーについて

drupa2016視察とオーストリアのDPS企業を訪問す
るツアーに参加されたメンバー19名全員が、無事6月
12日(日)に帰国した。

6月30日午後2時から日本印刷会館で、「フォーム業
界から見たdrupa2016」を開催する。すでに180名近く
の方々から参加申込みをいただいている。



小林副会長

❖技術委員会(福武委員長報告)

・セミナー「知っておきたい!この知識」について

講師の日程調整が必要ですが、8月8日午後日本
印刷会館で開催を企画する。テーマと講師は、「文章(テ
キストデータ)を解析する人工知能KIBIT」武田秀樹氏、
「GS1コードの基礎知識と最新動向」市原栄樹氏、「デジ
タルマーケティング時代のDM活用術」椎名昌彦氏を予
定している。

❖資材委員会(辻委員長報告)

・6月度用紙事情について

4月度の印刷情報用紙の国内出荷量は、前年同月比
2.3%減で9カ月連続の減少。新聞用紙の国内出荷量は、
前年同月比6.1%減と減少傾向が継続している。

2 日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

- (1)「印刷産業におけるリスクアセスメントセミナー」
案内
- (2) VOC警報器販売について
- (3)「印刷職種」日本代表選手選考会のご案内
- (4) 平成28年度会員団体都道府県別企業数調査
- (5) 平成28年度エネルギー使用合理化等事業者支援
補助金
- (6) 平成27年の職場における熱中症による死傷災害
の発生状況について

(7)「夏季の省エネルギー対策について」経産省

3 その他資料・ご紹介

・書籍紹介

- 「新製品・サービス開発の極意」大竹裕幸著
（「発明視点による市場創出セミナー」講師）
- 「鈍感な男 理不尽な女」黒川伊保子著
（日印産連主催「第1回女性活躍推進セミナー」講師）
- ・活動紹介記事（業界紙各紙）

4 各フォーム印刷工業会からの報告

関東フォーム印刷工業会報告（林会長報告）

関東のほうは、新年度になりまして、少し新しく理事が加わってスタートしております。活性化委員会の方でいろいろなサポートをされるように検討中ですが、少しメンバーを増やすと同時に、予算を増額して活性化委員会で自由にやっていただこうかなということで、予算を少し拡大させていただきました。

北海道フォーム印刷工業会報告（渡辺会長報告）

北海道の渡辺でございます。新年度に入りまして、前西会長から私に会長が代わりまして、副会長に三条印刷の川口さんということで、会長、副会長ともに若いメンバーに代わりました。改めてご指導いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

北海道は、特に今回目立った活動はなく、総会くらいです。すでに9月と12月に予定しておりますゴルフコンペと忘年会の日程について、それに向けての準備を粛々と進めていきたいという形になっております。

東北フォーム印刷工業会報告（西村会長報告）

東北の西村です。先日、5月17日に東北は総会を開きまして、大門前会長から私、西村が会長になるということで了解を得まして、副会長に山川印刷の立花さんがなるということになりました。

活動としては、総会のあとの役員会で決まったことは、8月4日に秋田の納涼会ということで、竿燈鑑賞をやるということと、また北海道と一緒にですが、忘年会の日程も決めまして、そういうことで活動しております。

私も人前で話すのが苦手なほうなので、うまく話せるかどうかわかりませんが、これから2年間よろしくお願ひしたいと思います。

中部フォーム印刷工業会報告（入野会長報告）

中部は、5月23日に総会を開催しております。理事が1人入れ代わっているという状況です。そのときに記念講演として、日経トレンディの編集長で、2008年からは兼務をされています北村森氏にお越しいただいて、「ヒット商品に不思議はない！」というテーマで記念講演をしていただいております。

来週には理事会と、懇親ゴルフの開催を予定しております。

関西フォーム印刷工業会報告（溝口会長報告）

関西フォームでは、5月19日に総会を行わせていただきました。総会以後としましては、今月24日に、いつもやっております大阪支部の例会のあとのプチ勉強会に、関東からToovの篠田さんに来ていただきまして、「フォーム印刷の元気の出る話」というものをお話しいただこうということで、皆さん期待して、たくさんの方が来ていただくことになっております。

7月になりまして、11日に大阪支部と関西の特別会員さん等々で、皆さんで毎年やっていますビアガーデンに行つてビアパーティを。例年60～70名で交流するのですが、大いに盛り上がりまして頑張りたと思っています。

あと、私事ですが、私も“drupa2016”に行きまして、私は日頃の行いがよくなかったと思ひまして、フォーム工連さんが到着する前に会場に行つていたのですが、4日はテロ騒ぎで中央ゲート閉鎖とか、6日の午前中はボヤ騒ぎで大変なことになったとか、悪いことばかりが私の行つているときには起こりました。その分、会場内は少し人数が減つたこともあって、勉強は非常にできたのですが、日頃の行いも大事だなと思ひまして、言葉等も慎んで仕事に励みたいと思ひます。

中四国フォーム印刷工業会報告（湯川会長報告）

中四国フォームでは5月19日に総会を行ひまして、役員の入代わり等ありまして、私がこういつた会に出席させていただくようになりました。今年度に入つてからの活動につきましては、山口専務理事から資料として配つていただいておりますが、この10月13日の「持ち回り理事会」の件について、数回にわたつて理事会を開催して、打ち合わせを進めております。現時点では、あらかじめ決まつたものについて資料として付けさせていただきます。何かございましたら言つていただければ非常に助かります。よろしくお願ひします。

九州フォーム印刷工業会報告（和田会長報告）

九州フォームでは5月18日に定期総会を開催し、ミヤコシさんに来ていただきまして、「インクジェット技術の進化と高まる期待」というテーマで勉強会を開催いたしました。

今、年末に向けてのスケジュール調整をしておりますが、その他事項としては、中四国の湯川さんにお話していただきましたが、持ち回り理事会の開催に関して中四国には資料等あまりないということで、先日、ちょっと広島に行きまして打ち合わせをしました。九州が昨年やっておりますので、その資料を全部提供して、あと細かい打ち合わせをしてきました。

九州も正会員が少なく特別会員のほうが多い状況です。福岡から新幹線で広島まではちょうど1時間です。今後、中四国と九州のフォーム工業会でちょっと合流しましょうかという話になりまして、まずは、ちょっと顔を合わせて相互で情報提供し合ひしようということに話がつきました。今期中に1回はそういう場を設けようかと思ひつています。

また、私たちも九州の会を運営する上で、話の内容をもつと充実させていきたいので、正会員のみではちょっと難しいと思ひつておりますが、特別会員で、Web作成とインターネット関連の総合商社という会社がありますので、デジタルマーケティングとかアナログマーケティングの会社に特別会員になっていただひて、一緒に交流しませんかという交渉を、今してしております。

今までは、特別会員といえば、紙や封筒のメーカーさん、商社などが多かつたのですが、皆さん、BPOというところで取り組んでいらっしゃると思ひつて、それに関係するような業者を巻き込んでいきたいなということで、今ちょっと交渉してあります。

最後に小林副会長より閉会挨拶があつた。

「小林副会長挨拶骨子」

皆さん、お忙しい中をお集まりいただきまして、本当にありがとうございました。速やかに進行が終つてしまつたので、今日は終了でございますが、今回がこのような新しいメンバーで、新たにフォーム工業連合会をスタートしていくことになりますので、ぜひ、皆さんのご協力の上で取り組んでいきたいと思ひます。

新しい会長の小谷会長の方から“drupa”について、いろいろお話が聞けるのではないかと思ひますし、また違つた視点でいろいろとご見学をされているのではないかと思ひますので、また話を聞いてみたいと思ひます。

いずれにしても、新しい理事の皆さまには、新会長を支えながら、今までとはちょっと違つたような、新たな取り組みも含めて進めて行けたらいいと思ひますので、ぜひ、よろしくお願ひします。

私自身も“drupa”のほうに行つてきてまして、先ほど話がありましたが、ちょうどテロの逮捕劇があつたり、火事も大変だつたという話は聞いたのですが、何か結構バタ

バタしてみたいと思ひます。私が見ていて思つたのは、印刷機はどこにもなくて、すべてカラープリンター。そういう流れの中で、うちの社内でも同じようなことを言つているんですが、やはり印刷の技術自体はこれからさらにどうなつていくのかなと感じました。当然ながら機械メーカーさんは一生懸命売つるものですから、ここが良くなりました、あそこが良くなりましたという話をいっぱいされるんですが、そんなに必要ですかねと。やはり、我々のエンドユーザーのお客さまのニーズに合つたものを、我々が提供していくことが一番大事であつて、これからスピードとか利便性は、まだまだ進化するのかなと思ひつておりますが、そのスピード・利便性がどこまでお客さまの必要な部分になるのかというのが、これからの落しどころではないかなと思ひます。

それは、やはり、私たちがお客さまの話をしっかり聞いてきて、そこにどうやつてつなげていけるか、いわゆるアプリケーションの組み合わせが、これからの仕事につながるのではないかなとすごく思ひました。ゆえに、これからのキーポイントとしては、「スピードと組み合わせ」が、これから先の我々の仕事のもとになるのではないかなと思ひつて帰つてきました。

日本の国内は、テレビをつければ、舛添さんとベッキーが出てくる。これが今の日本かなと思つるとなんとなく寂しいなというのが一つあります。そういった中で、ますます元気な我々のフォーム工連の皆さんと一緒に、何か新しい取り組みの仕事がこれからできたらいいと思ひますので、また来月、皆さんとお話ができればと思ひます。また小谷さん帰つてこられたらお話を聞きたいと思ひます。どうもありがとうございました。

次回の平成28年度第4回理事会は

開催日 平成28年7月14日(木)

時間 午後1時30分から

場所 日本印刷会館5階 501会議室
を確認して閉会となつた。



第3回理事会

日本印刷産業連合会

業界初の印刷産業向け ISO14001 (環境マネジメントシステム) への取り組み

日本印刷産業連合会は、「グリーンプリンティング、(GP) 認定工場によるISO14001認証取得事例発表会」を5月11日に日本印刷会館で開催し、約70名が出席した。

日印産連と日本フォーム印刷工業連合会は共同で、印刷業界の環境自主認定基準であるGP認定と、グローバル規格のISO14001認証(改訂2015年版)を有機的に融合させるスキームを開発した。業界基準をISO認証(2015年版)に活用した事例として、世界初の取り組みとして注目される。

今回は、パイロットモデル企業として実証実験に参加してきた、フォーム工連所属の木万屋商会(朝日健之社長)がISO14001認証取得することになったので、朝日社長が取り組みについて報告した。

日印産連の福島常務理事が事業概要を説明。また、今回に事業で審査機関として携わったアイ・シー・エルの藤木廣光東京営業支社長が、GP認定とISO14001の融合審査の実際とポイントについて解



福島常務理事

説。日印産連GP認定事務局の殖栗正雄氏が融合化事例の総括を行なった。

新たな融合スキームを利用した効率的な取り組みに向けて細かい検証が必要ではあるが、GP認定とISO14001の同時取得が可能であると実証されたことで、今後、印刷会社の環境対応において選択肢が広がったことになり、活用の仕方次第で取得に関する負担の軽減、競争力の強化につなげることができる。

なお、当日は認証式も行われ、アイ・シー・エルから木万屋商会に対してISO14001認証書が手渡された。

GP認定工場は現在、352工場に達している。このうち、ISO14001認証を取得しているのは97工場。しかし、ISO14001による環境マネジメントシステムとの両立の難しさなどがネックとなっていた。

そこで日印産連では、ISO14001の2015年版改訂を機に、GP認定制度とISO14001を両立する有機的な仕組みを目指し、フォーム工連の協力を得て、昨秋からISO14001との融合スキームによる実証研究を進めてきた。パイロットモデル企業は、GP認定を取得済みの企業としてフォーム工連会員企業である木

万屋商会に依頼した。

同社は2012年6月に市川工場がGP認定を受けた。2014年5月にはISO9001認証を取得し、この時に社員の半数近くがISO9001の内部監査員の資格を取得している。

今回、ISO14001(2015年版)に取り組むにあたっては、ISO14001の理解とともに、改訂版対応として、ISO14001内部監査員のスキル



木万屋商会 朝日社長

アップ研修も行なった。

認証取得に向けて、今年1月23日の第1回から、3月19日の第7回まで認証取得セミナーを実施、本審査を4月6日・7日に受審した。トップ以下社員全員が参加し、同じレベルで環境マネジメントシステムの理解に努めた。コンサルタント会社の助力も大きかった。

朝日社長は、「これまでGP事務局のメンバーだけが環境対策に取り組んでいたが、今回のISO14001の取り組みで、社員全員が環境を意識するきっかけとなった」。今後の課題として、「GPで培ったベースをフル活用する必要がある。そのためには、GP資料の一部内容の見直しや、マニュアルの変更が必要。また、コンサルタントを活用する価値は十分あるが、1社では費用負担が大きい。そこで、複数社で依頼する方法などを団体として検討してほしい。GPとISO、ダブル取得にかかる費用や時間も課題だ。同時に審査を受けられるよう完全融合することが望ましい」と話した。結びに、「日印産連の中に、印刷関連企業に特化したGPとISO14001を融合する独自の審査機関ができることを切に望む」ことを要望した。

アイ・シー・エルの藤木氏は、具体的な図式を示しながら、ISO14001のスキームのどこにGP認定の項目を対応させ、当てはめることができるかを解説。



アイ・シー・エル 藤木氏

全員が共通理解の下に進めた木万屋商会の取り組みを高く評価した。取得にかかる費用については、「コストと捉えるのではなく、ぜひ投資と前向きに捉えてほしい」とコメントした。

日印産連の殖栗氏は、GP認定をよく知る立場からISO14001へのGP認定制度の取込みについて解説した。

今後、GP認定事務局から行う情報提供の案としては次の3つを示した。

- ・GP認定様式に準じたISO用様式や手順書の提供。
- ・ISOに準じたGP認定基準の解説資料の提供。
- ・ISO取得等のための説明会、コンサルティングの提供。

また、審査体制に関わる今後の検討項目としては、木万屋商会からも出された要望を汲み取る形で、融合するためのツールやシステムの提供/低価格でのコンサルティング提供/割安な費用体系/同時審査の実現などを挙げた。

殖栗氏は、「パイロット事業などの実績を積み重ねながら、融合した体制を構築していく。印刷会社の皆さまにも、相乗効果を得るために融合スキームでの取得を検討いただき、印刷業界全体の活動として盛り上げていきたい」と抱負を述べた。



事例発表会会場



認証式

国際委員会

視察報告会

「フォーム業界から見た drupa2016」を開催

国際委員会(松川 稯 委員長)は6月30日、日本印刷会館で「フォーム業界から見たdrupa2016」視察報告会を、約200名の参加をいただき開催した。

日本フォーム印刷工業連合会では、会員企業から19名の参加をいただいて、6月5日～12日まで8日

間の日程で、drupa2016視察と、オーストリアでコミュニケーションサービスプロバイダーを目指しているDPI社のグループ企業であるKBPRINTCOM社を訪問する視察ツアーを企画し、実施した。

今回の視察報告会では、「デジタルプリント技術が



drupa2016 視察報告会場



drupa2016 視察ツアー参加者

オフセット印刷の破壊的な技術に成り得るか?。また、「デジタルプリント技術を活かした新ビジネスを創造することができるのか?」などの視点から、外部講師2氏と、この視察ツアーに参加した4氏が代表として報告を行なった。

このツアーでdrupa場内のガイドを務めた(株)プリンテクノ社長 木村哲雄氏が、「drupa2016展示会 出展概要」について解説した。



木村哲雄氏

講演ではdrupaに出展された主要各社のデジタル印刷機や、後加工機などを紹介し、最後に「インクジェット技術とJDFを制する者はデジタルプリンティングを制す」とまとめた。

続いて、「drupa2016注目ポイント及び企業視察訪問報告」として、視察ツアーに参加した代表者として4氏が登壇し以下のように報告した。

トッパン・フォームズ(株) 製造統括部技術部部長
小野田義巳氏

デジタル機のメーカー各社は加工機を接続して展示し、これまでの2次元コードに応じた可変枚数やバリエーション加工処理するだけでなく、上流のシステ



小野田義巳氏

ムでプリント時から面付けを変え、加工機ではコードを読み取って、違う仕上がり形態の製品をワンラインで処理するマルチ加工の展示・デモに力が入っていた。オンデマンド製本や新聞の分野で多く展示されていた。これまでデリバリ作業は人手に頼っていたが、一部単純作業にはロボットを採用しているところもあり、Print4.0の世界に近づいたようだ。これを進めるには、標準化と共通化、そして「見える化」が必要だと問題点を指摘した。

光ビジネスフォーム 営業本部日本橋営業所課長代理
中川正輝氏



中川正輝氏

Drupa会場では、B1サイズ対応や軟包装資材への印刷展示が多数あったが、フォーム産業から見るとピンと来ない。今後の印刷企業としては、クライアントの方向性を司る経営に近い部署へのアプローチが必要で、上流へアプローチして、印刷の範囲を取り払わないといけない。しかし、今回のdrupaの流れを見ると、フォーム業界向けの技術的な進展は一段落してしまった。これからはデジタル機を「どう利用していくか」に目を向ける事が重要ではないかと結んだ。

共同印刷(株) ビジネスメディア事業部 製品サービス設計部 課長 横田亮介氏



横田亮介氏

今回のdrupa展示で増加したものは、インクジェット機、液体トナー機、後加工機、生産状況の見える化、アライアンスを組んだ販売。減少したものは、モノクロトナー機、アナログ印刷機だ。設備導入時の注意点は運用スタイルをソフトに合わせること。そして、「モノづくり」を継続させ差別化させるためには、「ことづくり」への事業展開が必要であり、「営業力強化」「ターゲットを絞った設備投資」で印刷会社が利益を出す方法の模索が重要であると語った。

(株)イセトー 営業企画部部長
大塚啓史氏



大塚啓史氏

デジタルシフトに直面するフォーム業界では、メディアとしての紙の相対的な価値の低下を避けるた

め、いろいろな対策を取ってきた。今回、オーストリアでコミュニケーションサービスプロバイダーを目指し、DPI社のDPS部門を担うKBPRINTCOM社を訪問。同社では、封筒や用紙サイズ、折位置の共通化等の標準化を進めることで、低コストで効率的な生産体制が形成されている。紙を使う意味や役割を深堀し、他のチャンネルも含めた効果やチャンネルコストの最適化の提案を、ユーザーとともに求めてゆくことが重要と思う。そして、教育が非常に重要と報告した。

最後に「What They Think から見た drupa2016」のテーマで、(社)PODi代表 亀井雅彦氏が講演し、次のように話した。



亀井雅彦氏

drupaで印刷機メーカーは、「自社はもちろん、他社の技術を網羅したい」という意識があった。一方印刷会社は、「自分の興味のあるところだけ、ヒントとして見たい」と考えており、意識の差があると感じた。デジタル印刷は、オフセット印刷と同等の品質と生産性を得たはずだが、メーカーはそれを伝えられているかという課題がある。多くのデジタル機が出展され並んだが、「What They Think」の報告では、実際にデジタルで印刷されているのは印刷市場全体の2%、商業印刷市場に絞ってもデジタルは5%。デジタル機で何が刷れるかの答えを出そう。フォーム業界はオフセットカラー印刷物へモノクロで可変プリント等、非常にうまくできている。もう少し別のものを刷れば新しい世界に入れるはずだ。

そして、デジタル機がオフセット印刷の補完ではなく、後継となるには、印刷企業が、いかに生産の標準化ができるかが鍵となると講演した。

関東フォーム印刷工業会

平成28年度通常総会及び第2回理事会を開催

関東フォーム印刷工業会(林陽一会長)は5月13日、ホテル椿山荘東京で平成28年度通常総会及び第2回理事会を開催し、林陽一氏(光ビジネスフォーム社長)を会長に再任した。

総会を開催するにあたり、林会長は、「当会は会員の皆さんに有益な情報を提供するために活動しているが、皆さんも感じられている通り、われわれの業界各社は、今、岐路に立たされているのではないかと思う。そうした中で、企業の体力をいかに増強させていくかが課題だと思う。そこで、微力ながら引き続き関東フォーム工として、いろいろな形で皆さんをサポートしていきたいと考えている。上位団体の日本フォーム印刷工業連合会の中で、関東フォーム工が一番大きな組織なので、われわれがリーダーシップを取って業界の活性化を推進していきたい」と抱負を語っていただいた。

平成27年度はさまざまな視点からセミナーを実施した。また、創立50周年を迎えた日本フォーム印刷工業連合会の主要構成員として、国際総合印刷機材展“IGAS2015”への出展、新春懇親会・創立記念式典の開催などの事業を推進した。



林陽一会長

平成28年度も会員相互の信頼に基づき、業界の総合的發展を図るため、日本フォーム工連と共同で勉強会を開催する。DMやプロモーション、PLに関連した各種資格取得へのサポートを行うほか、CSR(コンプライアンス)に関する講座を企画し開催する。また、団体活動の強化と活性化のため支部組織を廃止して、活性化委員会を設立する。同会の委員長として浜岡光雄氏(木万屋商会)に就任され、勉強会や見学会、イベント(ボウリング大会等)を企画し、積極的は活動を推進していく。

今期で関東フォームの理事を退任されて、日本フォーム工連の理事に就任される根岸敬氏((株)昇寿堂)は、「今回、皆さんから日本フォーム工連でも少し頑張っていこうと温かい励ましをいただいた。微力ながら頑張りたい」と退任の挨拶をされた。

今年度から副会長として新任された宮下裕司氏(トッパン・フォームズ(株))は、「会社に入って40年ほど仕事をしてきたが、業界団体の仕事は初めてだ。いわゆる新入社員のようなものなので、先輩方のご指導を賜りながら務めていきたい」と挨拶した。また、理事に就任いただく、新保朝男氏((株)昇寿堂)は、「私はこの業界に入ってまだ10年も経っていない新参者なので、いろいろとご迷惑をおかけすることもあると思うが、よろしく願いたい」と挨拶された。

話し合いを持った。

続く講演会には、山形県考古学会会長の佐藤庄一様をお招きして、「上杉鷹山と西郷隆盛をつなぐもの」と題してご講演をいただきました。二人の共通の敬師である細井平洲と二人の関わりについてお話をいただいた。

その後、会員21名で懇親会を行った。懇親会では、会員の皆様で情報交換をしながら、楽しい一時を過ごした。



東北フォーム印刷工業会

平成28年度定時総会・講演会・懇親会を開催

東北フォーム印刷工業会(大門一平会長)は5月17日、平成28年定時総会を山形県南陽市の「いきかえりの宿 瀧波」で行った。

総会は、出席者14名で定足数を満たし議事に入り、すべて原案通り可決承認を得た。また、任期満了に関して新会長に西村孝之氏(第一フォーム印刷(株))、副会長に立花志明氏((株)山川印刷所)を選任し、終了しました。引き続き第二回の役員会を開き、今後の日程等について

翌日18日(水)にはゴルフ親睦会を行い、11名が参加した。

今後の行事予定については次の通りです。

1. 役員会・納涼会 8月4日(開催予定)
2. 工場見学会 10月(日程未定)
3. 望年会 11月27日(開催予定)

4. 新年講演会 1月(日程未定)

全国理事会について、当会によせる加盟各社のご協力に対しお礼を申し上げます。

総会終了後、引き続き懇親会が行われ、各テーブルごとに活発な情報交換があり、会員の親睦を深め終了した。

北海道フォーム印刷工業会

平成28年度総会・懇親会を開催

北海道フォーム印刷工業会(西智樹会長)では、4月22日(金)に札幌プリンスホテル国際館パミールにて総会を開催いたしました。

今年度は役員改選期にあたり、一期二年会長を務めた(株)パスカルプリンティングの西社長に代わり、これまで副会長を務めた(株)恵和ビジネスの渡辺社長を新会長に、また、三条印刷(株)の川口社長を副会長に、パスカルプリンティングの前田常務を監事に、それぞれ選任いたしました。

総会終了後の懇親会を開催し、新しい参加者の紹介や近況報告などを行い、新年度の活動に向けて会員相互の交流を図りました。



中部フォーム印刷工業会

平成28年度定期総会・記念講演会・懇親会を開催

中部フォーム印刷工業会(入野康会長)は、5月23日(月)午後3時より「メルパルクNAGOYA」(名古屋市東区)で、平成28年度定期総会を行い、引き続き記念講演、懇親会を開催した。参加者は総会38名、記念講演72名、懇親会58名でした。

入野会長は会員各社に対し、総会への参加と日頃の運営に対する支援と協力に対し感謝の意を述べたのち、開催の挨拶を行った。(抄録下記)

先月発生した熊本県を震源とする地震では、同業の地元企業、あるいは関係企業の一部では甚大ではないものの、被害が発生しています。改めて、先の地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げます。それとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、一日でも早い被災地の復興を祈念いたします。

さて、当工業会の会計年度でもあります平成27年度は、それまでのデフレ経済からの本格的な脱却と成長が期待された年度でした。

しかしながら、現況の国内経済は期待された政策の実



入野康会長

行と経済効果とは裏腹に、中国経済の停滞や産油国の戦略的思惑を背景とした原油安、為替レートの不透明な変動、さらに日銀によるマイナス金利という、かつてない政策の実行があったものの、好調を伝えられた経済指標でも一転してマイナスに振れるなど、株価をはじめ、経済成長の証左たる諸数値は安定していない状況が続き、実質GDPは一進一退を繰り返しています。先の“熊本地震”の影響を考えると、消費税の増税、2%のインフレターゲットの達成は、実質的には不可能であると言わざるを得ません。

結果的に、我々印刷業界は構造的な特質として、国内経済の好不況に大きく影響を受けざるを得ない業界であり、その「国内経済への依存」が大きな課題であることを認識しつつも、例年確認をしております。我々印刷関連業界に係る資料・諸統計や業界誌において、結果的には、昨年度に市場の拡大を期待した“マイナンバー制度の施行”“インバウンド需要”“東京オリンピックに向けた特需”についても、一部製品の特需はあったものの、大きな市場形成には至っておらず、全体としては“停滞感”を示しており、“ストレスチェック”等を含めた個別分野やBPO事業、DPS事業での伸張は期待されるものの、従来型の各種商業印刷、出版や一般フォーム印刷分野では、デジタル媒体への転換に大きく舵が切れ、それらが再び従来型の“印刷市場”を形成することはないものと認識し、広く印刷業界ではデジタルメディアとの融合等による新しい価値創造、市場形成に向け歩み始めていることは周知のところです。

しかしながら、我々フォーム業界においては、いち早くこのような市場の変革に対し、各社の新市場への挑戦、営業体制・生産体制の変革を進める動きも見られるところです。

例えば、当会の上部団体である日本フォーム印刷工業連合会の市場調査委員会が、毎年会員へのアンケート調査を行い、『フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書』として発刊・報告をされていますが、この中でいわゆる、“産業用カラープリンタ”に関する設問に対する回答において、「既に導入している」「ある程度仕事量を確保できている」「営業力が足りていない」という項目が高い比率を占めており、カラーインクジェットプリンター等の活用と、ソリューション提案を含めたフォーム印刷業界の“新しい市場へのチャレンジ”“実績化”“今後の課題”を如実に表す数値であり、この動きを歓迎するとともに、周辺サービスの充実、生産体制の変革等、さらにその動きを加速する必要性を痛感しております。

さて、先の平成28年1月21日に、当会の上部団体である日本フォーム印刷工業連合会の創立50周年を祝う式典が開催され、会の隆盛や業界の発展に対し功績のあった先輩諸氏に対する表彰が行われたところです。当フォーム業界においては、個別製品の黎明・開発を含めれば60年になるかという時を重ねており、ビジネスフォームという限定された用途に端を発する当業界が、使用される機器の発展とともにその製品形態や用途の開発を行い、社会が必要とする不可欠なツールとして、社会基盤たる情報流通の一翼を担ってまいりました。

すなわち、個別の事案・製品形態をあげるまでもなく、我々フォーム業界こそが、諸先輩が続けてこられた“時代の求めるニーズや製品を貪欲に探り・開発し・生産する”

というDNAを引き継いでおり、我々は自信をもって新たな市場にチャレンジし続けることによって、さらなる業界の発展があるものと確信します。

また、当会会員のマーケットである中部地区は、今週開催される伊勢志摩サミット開催を機とする観光需要、リニア新幹線の開業に向けた動き、航空機産業の集約と全国でも活況が期待される地域であり、日銀名古屋支店が公表する数値においても、設備投資の大幅な増加をはじめ、生産、輸出、雇用・所得、個人消費などの諸数値はいずれも緩やかな回復を示しており、好調な中部圏の団体として、多角的な切り口で会員に対する情報提供や新市場の開拓、深耕の参考となる技術的な研修会の開催を、当会の上部団体である日本フォーム印刷工業連合会や日本印刷産業連合会、関連団体との十分な連携と会員各社様のご協力をいただきながら、推進してまいります。会員各社様のさらなるご支援・ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

■ 総 会

議長に入野会長を選出して議案審議に入り、上程された4議案はいずれも承認された。合わせて、平成28年度役員変更報告に基づき、下記の新体制が承認された。

【平成28年度・新役員体制】

会 長 入野 康(小林クリエイティブ(株))
副会長 水谷勝也(富士印刷(株))
理 事 山中克重((株)イセト)、山元和弘(伊藤印刷(株))、伊藤則男(共同印刷西日本(株))、白尾浩志(トキワ印刷(株))、吉川慶士(トッパン・フォームズ(株))、山中一((株)トヨトモ)、三枝栄一(事務局：小林クリエイティブ(株))
監 事 加藤 薫(アコーダー・ビジネス・フォーム(株))
顧 問 杉山 悟(小林クリエイティブ(株))

(敬称略)



講演する北村森氏

■ 記念講演会

総会終了後、午後4時より記念講演会を開催し、元日経トレンディー編集長である、北村森氏より『ヒット商品に不思議はない!』をテーマに講演をいただきました。

■ 懇親会

記念講演の後、懇親会を開催し、ご講演を頂いた北村森先生も参加され会員相互の情報交換や参加者の懇親を深めました。

会員親睦ゴルフコンペを開催

平成28年6月23日に理事・会員各社より参加をいただき、「三好カントリー倶楽部」(愛知県みよし市)にて親睦ゴルフコンペを開催致しました。

関西フォーム印刷工業会

平成28年度定期総会・講演会・懇親情報交歓会を開催

関西フォーム印刷工業会(溝口剛司会長)は、5月19日に大阪市北区の堂島ホテルにて「平成28年度定期総会」を開催した。引き続き記念講演会および懇親情報交歓会が行なわれ、約80名の参加がありました。定期総会では、全て議案通り可決承認されました。

続いて行われた記念講演会では、堀内明日香様(元宝塚歌劇団宙組娘役の華凛もゆる様)に、「宝塚102年の歴史に学ぶ、組織づくりと人材育成」というテーマで、102年の歴史を積み重ねてこられた裏には、一流の人材育成や組織づくりの本質があります。宝塚の人材育成の3つのキーワードは、①ゴールが明確、②身体で覚える(コミュニケーション能力)、③反復(意味を理解)等、宝塚に入られてからの苦労話や、宝塚ならではのしきたり等、いろいろわかりやすくお話いただきました。

その後、懇親情報交歓会があり、いつもどおり恒例の音楽ライブも、大阪のキタで路上ライブで活躍中の重原美美香さんをお願いして、歌っていただきました。

平成28年新役員体制は次の通りです。

会 長(事務局) 溝口剛司(レスター工業(株))
副 会 長 瀧本正明((株)やまとカーボン社)
中川良樹((株)ジェイビーエフサプライ)
会 計 瀬戸 尚(小林クリエイティブ(株))
大 阪 支 部 長 平松敬康(野崎工業(株))
大 阪 副 支 部 長 川畑利之(相互ビジネスフォーム(株))
京 滋 支 部 長 太野垣裕二(寿フォーム印刷(株))
京 滋 副 支 部 長 西田 覚((株)イセト)
兵 庫 支 部 長 塚田和憲(塚田印刷(株))
兵 庫 副 支 部 長 谷口 亮(レスター工業(株))
理 事 小谷達雄((株)イセト)
小田匡人((株)イセト)
阪 本 実(東洋紙業(株))
天 川 豊(内外カーボンインキ(株))
片 田 重 一(共同印刷西日本(株))



溝口剛司会長

理 事 岡田康宏(トッパン・フォームズ(株))
江波 優(小林クリエイティブ(株))
杉野宏行(水三島紙工(株))
小山昇三(カワセコンピュータサプライ(株))
監 事 原田佳彦((株)トヨシコー)

第14回関西フォーム印刷工業会合同 ゴルフコンペ開催

関西フォーム印刷工業会(瀧本正明副会長)は、5月17日に瀬田ゴルフコース北コースにて、31名の参加で会員企業と特別会員企業様が、楽しい一日を過ごしました。

今回は、株式会社コーナンの鈴木智徳様が、みごとなスコアで優勝されました。



大阪支部 「例会とプチ勉強会」を開催

4月例会と第51回プチ勉強会を開催

関西フォーム印刷工業会大阪支部(平松敬康支部長)では、4月28日に中央区民センター3Fにおいて、4月例会と第51回プチ勉強会を14社から16名が参加して、開催しました。

今回のプチ勉強会は、「企業名刺」と題して、野崎工業株式会社 常務取締役 山森典穂氏にお話をいただきました。

オンデマンド印刷を早くから手がけてきた野崎工業様では、自動組版の開発技術を基礎に、WEB画面上で企業名刺の組版体裁を表示し、校正確認の終わった名刺が印刷受託できる仕組みを、オンデマンドの柱としてこられました。この仕組みの一番の強みは、一度採用されると必ず継続するところで、ある種「ストックビジネス(積み上げビジネス)」であるという点である。全社員のデータベースを預かり、CIを守り、従来の名刺発注の手間と経費振り分けの煩わしさを省き、大量異動時の名刺の準備期間を短縮し、全社1か所発注のスケールメリットで価格も安くなる等々、企業側にとって良いことづくめである。同時に我々印刷業者にとっては、すばらしく安定した受注先が確保でき、校了データが毎日自動販売機のように届くところである。

同社がサービスを開始した10年前に比べ、最近では同様のシステムを提供するソフト会社も増え、各企業の総務部ではコスト削減策(手間を含めた)の目玉となっているようだ。



大阪支部 4月例会



大阪支部 6月例会

BFで新規顧客の口座開設に苦労している同社では、このWEB名刺システムで新たな口座を獲得し、その後の印刷物の受注につなげていく戦略を展開している。同様の展開を希望するフォーム印刷工業会のお仲間にもシステムの提供をしていく用意があるので、気軽に相談していただきたいとのことでした。

6月例会と第52回プチ勉強会を開催

6月24日に大阪市中央区区民センター2階会議室において、6月例会と第52回プチ勉強会を開催しました。今回のプチ勉強会は、「元気の出るお話」と題して、株式会社TOOV(トゥーブ)の代表取締役の篠田ち糸様にお話をいただきました。

会社の代表者でありながら、行政書士、健康運動指導士、栄養士など多彩な資格をお持ちの篠田ち糸様。人間は心と体の二人で一人なので、心の健康と体の健康の両方に注力して生きていくために、あらゆる実験と努力を重ねてこられた様子。朝はラジオ体操から、片足立ちの歯磨き(それも右手と左手で交互に歯を磨く)。体の柔軟性を保つためのジャンプ500回。断食実験で空腹時の方が脳が活性化することを知り、現在は一日一食を実行中。毎日コツコツと継続することで、老いる暇などないとのこと。今は栄養管理士の勉強中とのことでした。肝心のTOOV製BF連続カラー監視装置の説明は、ご子息の篠田宇(そらと)氏から10分ほどでした。お二人は車で千葉から走ってこられ、この会の後はそのまま千葉まで走って帰るという。やはりお元気です。

中四国フォーム印刷工業会

平成28年度定期総会及び親睦ゴルフコンペを開催

中四国フォーム印刷工業会(太田真義会長)は、5月19日(木)午後5時よりメルパルク広島において、16社から24名が出席されて平成28年度定期総会を開催した。

この総会において任期満了に伴い、中四国フォーム印刷工業会の会長として湯川真氏(株式会社新生 専務取締役)が就任された。

今年10月に開催する持ち回り理事会についての打合せ



総会の風景



親睦ゴルフコンペ

は、4月20日に(株)アドプレックス会議室において、11社から15名が参加して行なっているが、5月19日の総会後の理事会においても、再度持ち回り理事会についての打合せを行なった。

5月21日(土)には8社から11名が参加され、山陽ゴルフ倶楽部において、親睦ゴルフコンペを開催した。

九州フォーム印刷工業会

平成28年度定期総会及び第1回理事会・研修会・親睦会を開催

九州フォーム印刷工業会(和田秀一郎会長)は、5月18日(水)に、(株)プロゴワス 福岡オフィスにて平成28年度定期総会及び第1回理事会、研修会、懇親会を開催した。

定期総会では、正会員8社11名が参加し、第1号議案(会員状況報告)から第4号議案(役員改選)まで審議され、承認されました。

研修会は特別会員も含め、11社22名が参加して、「インクジェット技術の進化と高まる期待」と題して、(株)ミ

ヤコシ POD営業部 山本隆一様に講師として講演いただいた。内容は、デジタル印刷市場規模について「ワールドワイドと日本の比較」・「フルカラーデジタル印刷市場の推移」等の説明をいただき、デジタル印刷市場の拡大とともに大きなビジネスチャンスがあることを認識した。

特別会員を含めた懇親会では25名が参加し、会員相互の情報交換や新メンバーの紹介等を行い、おおいに親睦を深めることができ、楽しいひとときを過ごした。



定期総会の風景



親睦会の風景

drupa2016視察レポート

drupa視察に参加して

株式会社イセト 東京営業本部 野原 弘次

ドイツ・デュッセルドルフで開催された「drupa2016 国際印刷・メディア産業展」に日本フォーム印刷工業連合会のメンバーとして参加させていただきました。

印刷・クロスメディアの最先端が一同に集結する展示会として、そのスケールは壮大。

今回も世界50ヶ国以上、1500を超える出展が全19のホールに展示され、市場を切り拓く革新的なサービス・ソリューションの紹介となっていました。

“Drupa2016”は、印刷・包装・マルチチャネル・グリーン印刷・3D印刷・機能性印刷の6つの分野で展示され、我々に最新技術の動向と新しいソリューションへの気づきやヒントを与えてくれました。

展示各社の工夫は、我こそ最新技術と言わんばかりの活気と熱気に満ち溢れていました。

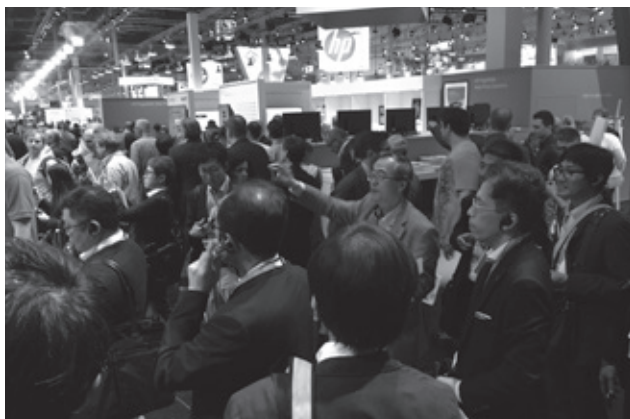
さて、我々フォーム工連のメンバーは、株式会社プリ

ンテクノ 木村氏によるガイドのもと、主要メーカー各社の展示会場を効率的に視察しました。

インクジェットメーカーは、各社で自社の特徴を出そう(他社との差別化)と必死の様相で、新しい技術革新にチャレンジしていました。Canonはクロメラインキで色調拡大、Kodakはインクドロップサイズの縮小化、富士フィルム・RICOHはヘッド開発による高解像度と品質の安定を実現させていました。そのほか、今回は大手メーカー同士の業務提携が目立ち、パッケージ市場をにらんだオフセット印刷メーカーとインクジェットメーカーの共同開発が多数発表されていました。

ツアー後半は、オーストリアに移動し、KBプリントコム社を訪問。データ用紙・封筒の仕様統一を実施し、郵便料金を含むコスト低減ソリューションを見学。徹底したコスト意識には、目を見張るものがありました。

最後に、ツアー8日間を寝食をともにしたフォーム工連各社メンバーと、今後の業界発展について語り合えたこともたいへん素晴らしい経験となりました。



drupa2016 展示会ガイド



KB プリントコム見学者

フォーム業界の営業からみたdrupa

ナカバヤ株式会社 東京本社
デジタル・フォーム営業部 竹上 隆一郎

今回の“drupa”視察ツアーに参加するにあたり、いくつかの直前レポートを読み、4年前の“drupa2012”参加者から伝え聞いた当時の記憶を辿りながら、今後自社に必要な技術は何か、デジタル印刷機の後継機はどうか、購入のタイミングは等、これらの諸条件が重なり、かなりフィルターのかかった状態で視察を行うこととなった。

私個人の興味は、インクジェット技術の進化であり、



drupa2016 会場

インクの紙(メディア)への定着問題において、インク・ヘッドの開発が先か、紙の開発が先か。視察後の最初の感想は生産能力を含め、インクジェットプリンターは確実にオフセット印刷機に近づいているとの印象を持った。他に目を向けても、デジタル印刷の可能性は、B2からB1へ、段ボール・紙などの梱包材・軟包材・高付加価値をもたらす加飾印刷・3D印刷へと、まさに水と空気以外は全てと言えるほど広がった。さらに、後加工分野においてもデジタル化が進み、インラインでのバリエーション加工を可能にし、IoT・M2M・クラウドによって状態監視し、最適な方法でより効率よく、省エネルギーを実現しながら、ノンストップでオペレートできるという印刷業界におけるIndustry4.0とも言える技術披露の場であった。

ホワイトペーパーファクトリーを観た！

光ビジネスフォーム株式会社
DPP 第1センター 企画部 大井 康之

今回、“Drupa2016”視察ツアーに参加させていただきまして、第一印象としては会場の広さ、出展社数の多さに圧倒されました。私にとって、海外の印刷機材展は、新鮮であり、初めての経験でもあり、とても充実感のあるツアーでした。インクジェットの印刷機が数多く展示され、解像度も1,200dpiが標準となっており、とても品質が向上していることが感じられます。インクの技術も進歩して、多種多様な用紙に印刷可能となり、にじみが出るなどの現象も改善されていました。きれいに印刷するためにはトナーと思っていたのですが、インクジェットでもオフセット印刷と比べても分からない程の品質もあり、驚かされました。加工機も効率化やトラブル低減の工夫が見られました。

封筒がロールになっており、1度に4万枚セットできて、セット時間の短縮や面倒をなくす工夫がされていたり、封入部分をスムーズにし、ジャム発生の低減を行っていたりと、実際に使用してみないと分かりませんが、生産性が上がるのではないかと期待されます。現場とし

ただし、日本市場に落とし込んだ場合、コスト面に触れていないことや、インラインシステムにおいて、どこかで不具合が起こった際、全行程がストップし、各機の能力が発揮できない等、数多くの課題が存在するのも確かである。その感覚から、奇しくも“drupa”視察報告会でPODiの亀井代表がおっしゃった「プロダクトアウト」という表現に合致します。

ただ、素晴らしく進化したこれらの技術を、どのようなアプリケーションで日本のマーケットに当てはめるか、トランザクション系が中心であったフォーム業界が、いかにフォーム業界での4.0へと展開するのか、今後の我々の取り組みがより一層重要であると感じる視察となった。

では、品質もですが、トラブルが起きず納期厳守で生産性を上げる事も必要です。インクジェットのインク抜け対策やパージ時間の短縮。ジャム発生の低減などの技術が上がることに期待します。

次に、オーストリアの企業KBPRINTCOM.AT社を視察させていただきましたが、「ホワイトペーパーファクトリー」が私の中のイメージであり、感想です。顧客からのデータはPDFやAFPで、白紙フォームにOcéのカラーインクジェットプリンターでそのまま印刷を行う作業が多く、封筒に関しても窓位置も固定され、サイズも3種類程度で、仕様はかなり限定されていました。工場の中も様々な帳票があるわけではなく、白紙ロールがたくさん置いてあるだけで、印刷機のオペレーターも作業が単純化されているためか、一人で行なっていることにも驚きを感じます。在庫管理や確認作業などが容易になり、短納期も対応可能になるなど、メリットが多くあると思われます。普段、海外の工場などを見学できる機会などありませんので、私にとって非常に良い経験となりました。

最後にツアーにご一緒させていただきました皆様に御礼申し上げますと同時に、これを機に皆様方との情報交換をさせていただければ幸いです。ありがとうございました。



drupa2016 会場入口



工場内ストック原紙

北米印刷事情レポート (WhatTheyThink) より

Xerox Inkjet drupa 2016

XeroxとImpikaの統合によって、drupa2016で新しい製品を紹介が可能となった。さらにはXeroxの将来の方向性を見せているかもしれない。

Xeroxが二つの上場会社に分割することになったのはご存知でしょうか？ 一つ目はサービス会社である。もう一つは元々Xeroxのビジネスである印刷機、コピー機器の会社である。それを吉報と考え、新会社には様々なチャンスがあるという立場から見た方が良いでしょう。

私の最初のXeroxに関する記事では、同社の歴史で初めてのインクジェットであるCiPressのことを調査した。次いで、幅広いインクジェットの技術と経験を持つImpika社の製品についての紹介を書いた。その後、XeroxはImpika社を買収し、多くのインクジェット技術を持つ会社を形成した。2015年、スイスのルツェルンで行われた“Hunkeler Innovation Days”で、最初のXeroxブランドの製品として紹介したXerox RialoTM900は、称賛を持って迎えられた。この製品はユニークな「ビジネス品質カラー」のロールtoシートのインクジェット印刷機で、A4版で設置面積も小さい。そして価格も1億円以下（6～7千万円）で提供された最初のインクジェット機器でもあった。この商品によって、Xeroxブランドが再び認知され、インクジェット市場においての立場を確立させることになったのではないだろうか。 drupa2016では、さらにXeroxのインクジェット市場のビジョンを発表する予定であろう。

イメージング

現在のXeroxは新製品の開発にあたって、広範囲なインクジェット技術を利用することができる。それにはTektronix社から得た「フェーズを変える」技術、Impika社から得たサードパーティーのインクジェットヘッドを柔軟に利用する技術、Xerox PARCの研究と製品開発した技術、さらにパートナー会社である富士フイルムのDimatix技術を導入する可能性もある。

現状のインクジェット商品ラインで、Xeroxはこれらの中からいくつかのものを利用している。CiPress機は、コストの安いオフセット用紙にプライムコートなしで印刷可能なドロップオンデマンド(DoD)で600dpiのプリントヘッドを利用している。Rialto 900と新製品であるBrenva HDは、基本の600dpi解像度に4段階のグレーレベルが処理できるピエゾ方式のDODヘッドであるKyocera KJ4Bプリントヘッドを利用している。

印刷・出版市場のコンサルタント David Zwang氏

Evolution、CompactとReferenceの各既存機種及び新製品であるTrivor 2400は、パナソニックのDoDシリーズ420プリントヘッドを利用し、様々な液滴を粒径を打ち分けて600dpiの解像度を実現している。

しかし、ここまでのこのシリーズの読者であれば、プリントヘッドの選択だけではなく、利用する方法によって印刷機の性能と品質が左右されるのはご理解いただけるであろう。例えば、Kyocera KJ4Bを使用している他の印刷機メーカーも、Xeroxと同じくプリントヘッドの性能を向上させている。キヤノンのColorStream 3000の「プリファイア」機能、VarioPrint i300の「マルチドロップ」機能といった例である。XeroxのBreva HDは仕事によって液滴の粒径、スピード、解像力を調整する能力を実現している。XeroxのCompactモデル、Referenceモデル、Evolutionモデル、ならびにTrivor 2400には、Impika社が開発したVHQモードを利用している。VHQモードは、パナソニックのプリントヘッドが通常は、1ノズル当たり3段階のグレースケールのモードの代わりに、二つのチャンネルで2種類の液滴サイズを射出する。その結果、あらゆるサイズの液滴の着弾時間を最小にし、着弾位置性能を高め、画像の品質を向上するというメリットがある。VHQモードには二つのプリントヘッドのチャンネルが必要なので、Evolutionモデルではフルカラーのみ、CompactモデルとReferenceモデルではモノクロでの稼働になっている。今後は他の製品にもフルカラーモードのオプション機能となっていくであろう。

最後に、Xeroxは今年30 kHzから40 kHzにプリントヘッドの周波数を高め、印刷機の生産性を30%も高めている。

インク

ここ何年もXeroxとImpikaは、トナーとインクの性能の改善に取り組んでいる。2012年、ImpikaがHD顔料を使用したインクを発表した。HD顔料インクとはナノ粒径の顔料粒子によって、ノズルの通過性を確保しながら顔料の充填性を改善するものである。今年drupa2016において、さらなる性能改善、より広い色再現領域とコントラストを実現する新しいHDインクを発表する予定である。

drupa2016では、Xeroxの新製品であるハイフュージョンインクの技術デモンストレーションを行う。これは標準的なマット、シルク、グロスのオフセット用紙に、後処理をすることなく、印刷することを行う取り組みである。もちろんインクはもとより、インク、ヘッド、ド

ライヤー、チラーを全部総動員する必要がある。これは全印刷機メーカーの目標であり、どのように達成されるのかを大いに期待していることだ。drupa2016にデモンストレーションを行われるハイフュージョンインクのサンプルを見る機会があったのだが、素晴らしい品質であった。Xeroxのハイフュージョンインクは2016年のQ4にベータテストが始まる予定であり、2017年の発売予定となる。

印刷機モデル

プロダクション電子写真方式プリンター機において、Xeroxは最も複雑なポートフォリオを持っている。11台のモノクロ機とハイライトカラー機に加えて、10台のフルカラー機を有している。数多い電子写真方式のカラー機ラインの中でも、ハイエンド機は2015年に開発されたiGen 5がフラグシップである。ミドルクラスではXerox Versant 2100があり、ローエンドはXerox C60機である。

しかし、インクジェット機も含まれれば、新しい商品カテゴリーと定義が必要となる。Xeroxのインクジェットのポートフォリオには8台の機種がある。現在発売している連続紙のラインには、CiPress印刷機の325 fpmと500 fpmモデルがある。Impika社の買収から3台の水溶性インクDoD印刷機も統合されている。最速で833 fpm(254 mpm)のXerox Impika Evolutionモデル、416 fpm(127 mpm)のXerox Impika CompactモデルとReferenceモデルである。さらに157 fpm(48mpm)で連続紙で、A4シート切り出しのXerox Rialto 900がある。それに加えて、連続紙のTrivor 2400とカットシートのBrenva HDがある。

次時代のモデル

drupa2016にむけて、2機種のインクジェット印刷機を発表する。2012年に紹介されたRailto 900は、単にXeroxの外枠で包んだImpikaのGensisコンセプトの印刷機であったが、今回の2機種は新生の会社から生まれたものだ。Xeroxが「新しい」インクジェットのポートフォリオを築くにあたって、この2機種は、もともとの2社の既存顧客からのフィードバックと強みを織り込んで、市場のスイートスポットをターゲットとしたものとなった。

・Xerox TrivorTM 2400

この新製品はImpika Compactモデルを基礎とするが、抜本的に堅牢性が高い機器である。まず、コンパクトなデザインを引き継いでおり、寸法が11.5フィート(3.5メートル)縦、8.8フィート(2.7メートル)横で、市場の中で最も小さな設置面積のインクジェット機である。タ

Xerox TrivorTM 2400



ーバーを使わずに表裏プリントを実現した。特にヨーロッパとアジアの多くの印刷会社にとって、インクジェット導入を考える際に設置面積というのは大きな問題となる。多くの企業が電子写真方式のトナー機からの置き換えを考えており、床面積は常に課題となり、Xerox Trivor 2400のコンパクトさは重要である。

この印刷機は4/4、4/0、1/1の設定で、フィールドアップグレードも可能である。印刷スピードを調整する機能があり、スローダウンしてオペレーターは印刷をチェックし、生産性を確保するスピードの切り替えができる。この印刷機の基本は600dpi解像度のパナソニックのインクジェットヘッドを利用しており、複数の品質モードをサポートしている。生産性モードでは360×600dpiの解像度で、印刷スピードが551fpm(168mpm)、品質モードでは600×600dpiの解像度で328fpm(100mpm)、1200×600 dpiの解像度では164fpm(50mpm)になる。モノクロのモードでは、656fpm(200 mpm)、656fpm(200mpm)、328 fpm(100mpm)になり、前述したVHQも可能だ。

DoDインクジェットヘッドは印刷してない間も、なんらかの動作をして最適の状況を保たないと、ノズルが欠落するおそれがある。そのためにClear Pixel技術を搭載している。Clear Pixel技術とは一定期間で、裸眼では見えない間隔でヘッドからスプレー状にインクを射出する技術である。さらにはXeroxインテリジェント・スキャン技術も搭載している。これはオンデマンドで欠落した液滴の検出/リカバリーを行い、インラインで密度の最適化を行う機能である。ほとんどのピエゾDoDプリントヘッドは非常に長寿命であり、年単位で計測されるが、さらに印刷コストを削減するためプリントヘッドの再生(リファープ)のプログラムを準備している。

Trivorは事前コート用のプライミングステーションを装備していないが、HDインクによって通常のオフセット用紙に対応させている。そして、この新しいインクは、パーズ(強制噴射)の必要は最少で、ノズルを詰まらせないとしている。しかし、非インクジェット塗布紙、特にコート紙系の対応には限界があるとしている。でも、この問題は、Xeroxの新しいハイフュージョンインクを利用すれば改善するであろう。

信頼性と生産性のために、Trivor機の搬送系には改良したクリーニング機能と新しい紙パス構造を採用した。乾燥はIRと熱風乾燥を併用している。数多くの後加工機パートナーのフィニッシング機器と接続稼働できるように開発されている。その結果として、使用できる紙の斤量が40-230 gsmまで拡張されている。

TrivorのフロントエンドはFieryが提供しているXerox IJプリントサーバーである。あらゆる印刷の需要に対応して、印刷機がフルスピードで稼働できるように、スケラブルなプリントサーバーである。Xeroxは各需要に応えるべく6種類の機種構成を準備している。

Xerox BrenvaTM HD



・Xerox BrenvaTM HD

Brenvaは両面印刷機で、B3+サイズ(14.33×20.5インチ)まで印刷でき、最も高速でA4サイズ197枚/分である。Rialtoと同じように「ビジネスカラー」品質で「ダイレクトメール」等をターゲットとしている。両機とも600dpiのKyocera KJ4Bプリントヘッド、画像処理、水性インクを共用している。4つのプリントバーはそれぞれが独立したモーターで制御され、最適な見当と品質のため、プリントヘッドは常に監視、調整されている。画像処理システムは液滴粒径を制御し、複数の異なった粒径の液滴が、どこかの位置にでも着弾でき、印刷の品質は改善され、スムーズな細線も印刷できるようになった。そして、インテリジェント・スキャンパー技術によって、ノズル詰まりによる欠落を特定し、自動で補正を行う機能を持っている。さらに、インラインの分光光度計が用紙のプロファイルを生成し、ターゲットチャートが読み込まれる。

搬送機構では高度な見当合わせが行なわれ、用紙が印字位置に到達する際の横の動きを押さえるため、ダイナミックにベルトの位置補正を行うことで実現している。インクジェット用にコーティングされていない平滑性が高い用紙、普通紙、平滑性が低い用紙、及びインクジェットコート紙に印刷が可能である。用紙トレイは2万シートの積載能力があり、8カ所から搬送できるので、稼働中でも用紙の補給が可能である。Xeroxプロダクションスタックは5,500枚搭載可能で、稼働中でも紙変えをすることができる。XeroxにCP Bourgの中綴じ機を装備することができる公表され、近い将来に他の後加工機も装備されることになると見込んでいる。

Brenvaのフロントエンドは、Windows環境のFreeFlowプリントサーバーと関連ソフトである。この最新のバージョンではWeb UIが更新され、既存のXerox顧客のDFEにあるインテリジェントな画像アルゴリズムと修正ツールも搭載される。これらを全て込で約7千万円の価格とし、市場の中で最も安いカットシート・インクジェット印刷機となった。

ワークフロー

個々のDFEに加えて、ワークフローオートメーションのシステムの中核であるFreeFlow Coreの開発を継続している。この新技術は徹底的に新製品ののために設定されたもので、元のワークフローアプリ「FreeFlow Process Manager」と混同してはならない。

FreeFlow Coreは「ルールベース(決められた流れ)」に

基づいてワークフローを自由に設計できるソフトである。このアプローチをとることにより、Xeroxはワークフローを「すべてのジョブに一つの」ではなく、自由に組み合わせることが可能なアプローチにしている。

drupa 2016において、新しいFreeFlow Core 5.0をリリースする予定である。2015年の最初のクラウドの発表をさらに発展させるものである。それには出力管理機能と、より広いサードパーティーのパートナーの後加工機メーカーの制御と統合がなされている。

Xeroxが紙器を?

この記事の取材の途中で、Xeroxの最も大きな秘密の一つを発見した。Xeroxは沈黙を守っていたが、60社ぐらいの観客(ほとんどヨーロッパにある)が紙器の生産ラインでiGenを利用している。この情報だけで新しい記事が書ける程である。しかし、そこで終わりではない。XeroxとKBA社は、KBA VeriJET 106ハイブリッド機のPowered by Xeroxを共同開発すると発表した。紙器業界の特定のニーズに対応したインクジェット・オフセット印刷機であり、ユニークな組み合わせではないだろうか。このハイブリッドのコンセプトは印象的で、この紙器印刷機を一段と進化させることができたようである。

結論

電子写真のトナー印刷の中でXeroxは当初からリーダーであったのに対して、インクジェットの世界においては追う立場となった。そして、産業用プリントの本来的で経済的なブレイクスルーの中核は、インクジェットとプリントの自動化である。

Trivor機とBrenva機のリリースを見れば、Impika社の製品の外見を改めただけではないことが見えてきた。さらに、XeroxのKBA VariJET 106紙器用インクジェット機を加えれば、Xeroxが電子写真の世界で行なってきたように、インクジェットの世界でも新しい基準を設定したいようだ。それを達成するために、既存の電子写真プリント機と小ロットのオフセット印刷機から、限りなく障害を少なくしてインクジェット機に移行させようとしているように見える。

その一方、「新しい」Xeroxとして、どうやって市場に伝達するか?は大きな課題である。そろそろ膨張する幅広い技術資産を見直すべき時かもしれない。この新会社とは何か?新しい市場の条件に対処できているか?という質問に関して、具体的なメッセージを伝える必要がある。

まず、Xerox独自のインクジェット印刷機に加えて、Xerox Impika、また、Xeroxの他のイメージング技術とのジョイントベンチャーを重ねていくのは良い一歩ではないだろうか。

提供 WhatTheyThink
翻訳 PODi

NPiフォーム NEXT-IJ α



NEXT-IJの品質特性をベースに、印字濃度、裏抜け、印字耐水性(染料)等を更に高めた新製品です。今後、幅広い分野に展開が進むと考えられているフルカラーIJ印刷において、IJ用紙に対する要求品質に高いレベルで応えて参ります。

NEXT-IJ α 規格表

連量 (Kg)	<58>	<70>	<104>
坪量 (g/m ²)	67.5	81.4	121.0

日本製紙株式会社

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6 (御茶ノ水ソラシティ) Tel.(03)6665-1111





21世紀の情報記録をサポートします。

三菱情報記録用紙

三菱 NCR紙 三菱 IJフォーム用紙 DFカラーM・G
 ダイヤフォーム ダイヤメールシリーズ OCR用紙 感熱紙

三菱製紙株式会社

洋紙事業部 情報・特殊紙営業部 〒130-0026 東京都墨田区両国2丁目10番14号 両国シテイコア ☎03(5600)1462
 大阪営業所 情報用紙グループ 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1丁目3番9号 ☎06(6271)4455

三菱製紙販売株式会社

本 店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-4 ☎03(3566)2341
 大阪支店 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-3-9 ☎06(6271)2271
 名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-16-22名古屋ダイヤビル ☎052(563)7561
 東北支店 〒983-0045 仙台市宮城野一丁目11番1号ダイヤミックビル ☎022(295)7710
 九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-6 綾杉ビル ☎092(771)1531